

令和2年度第1回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議開催結果

<日 時> 令和2年6月11日(木) ~ 25日(木)

<場 所> 書面会議

<出席者> 全委員 計26名

荒会長、青木副会長、森委員、古田委員、横山(史)委員、青山委員、小松委員、益山委員、伊東委員、佐藤(義)委員、菊池委員、岡田委員、大村委員、佐藤(貞)委員、川北委員、石川委員、斎藤委員、五東委員、中川委員、野田委員、清水委員、山崎委員、森本委員、田口委員、奥貫委員、石垣委員
(.....下線は一部改選に伴う後任委員)

<配布資料(別添のとおり)>

部会長選出(はたらく部会)

議題(1)令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

議題(2)令和元年度千歳市障がい者総合支援センター運営事業報告

議題(3)令和元年度千歳市地域生活支援センター相談支援強化事業報告

議題(4)令和元年度千歳市障がい者就労支援事業報告

議題(5)千歳市からの報告

令和2年度千歳市の障がい福祉施策等について

令和2年度障害者就労施設等からの物品等の調達方針

令和元年度千歳市障害支援区分認定審査会審査結果

議題(6)令和2年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

<会議の結果(承認書面)>

上記議題等について、全委員の皆様にご承認をいただきました。

<その他>

議題承認とは別に、承認書面の提出に合わせ、コロナの影響とその対応について憂慮していることに関するご意見をお寄せいただきました。いただきましたご意見につきましては、今後の会議等での取り扱いについて検討させていただきます。

令和2年度 第1回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議

(書面による会議)

<次 第>

1 新任委員の紹介

2 部会長選出(はたらく部会)

3 議 題

(1) 令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

差別解消・虐待防止専門部会

手話言語条例推進専門部会

進路連絡会議

(2) 令和元年度千歳市障がい者総合支援センター運営事業報告

(3) 令和元年度千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告

(4) 令和元年度千歳市障がい者就労支援事業報告

(5) 千歳市からの報告

令和2年度千歳市の障がい福祉施策等について

令和2年度千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針

令和元年度千歳市障害支援区分認定審査会審査結果

(6) 令和2年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

4 その他

千歳市障がい者地域自立支援協議会委員名簿

任期：令和2年10月28日まで

選考区分		所属機関・団体等	委員役職・氏名	区分補足	備考		
(1) 公募	1		森 勝 子	障がい者家族			
	2		古 田 聖	障がい当事者			
	3		横 山 史 紀	一般市民			
(2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者	4	千歳公共職業安定所	上席職業指導官	青山 新 吾	雇用・労働行政機関職員		
	5	北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室健康推進課	保健係長	小 松 武 彦	保健・医療行政機関職員	新任委員	
	6	千歳病院	精神保健福祉士	益 山 桂 太 郎	医療機関職員		
	7	社会福祉法人 千歳いずみ学園	総合施設長	荒 洋 一	障害者支援施設役員		
(3) ア) 関係機関及び団体等の代表者又は推薦を受けた者障がい者又は障がい児の家族団体又は支援団体等	8	千歳身体障害者福祉協会	会長	伊 東 ミ ッ 子	身体障がい当事者		
	9	千歳聴力障害者協会	会長	佐 藤 義 典	聴力障がい当事者団体		
	10	千歳視覚障害者福祉協会	会長	菊 池 悦 子	視覚障がい当事者団体		
	11	千歳市肢体不自由児者父母の会	会長	岡 田 美 智 子	身体障がい者家族		
	12	千歳市手をつなぐ育成会	会長	青 木 繁 雄	知的障がい者家族		
	13	千歳市つくし会	会員	大 村 徳 子	精神障がい者家族		
	イ) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関する関係機関又は団体等	14	千歳市民生委員児童委員連絡協議会	会長	佐 藤 貞	地域福祉団体	
		15	千歳市社会福祉協議会	専従通訳者	川 北 美 由 紀	地域福祉団体	
		16	千歳商工会議所	事務局長	石 川 勇 人	経済団体	新任委員
		17	北海道千歳高等支援学校	教諭	斎 藤 芳 朗	高等支援学校	
		18	千歳市立北進小中学校 (相談支援・地域連携部)	教諭	五 東 康	特別支援学級	
		19	北海道南幌養護学校	教諭	中 川 道 博	特別支援学校	
	20	就労推進室やませみ	就労推進員	野 田 雅 裕	就労推進員	新任委員	
ウ) 障害福祉サービス事業所等	21	生活介護ステーションゆみな/ 支援センターゆみな	所長	清 水 道 代	通所系障がい福祉サービス事業所		
	22	就労移行支援事業所ゆうび/ 就労継続支援事業所ゆうび	所長	山 崎 千 尋	就労系障害福祉サービス事業所		
	23	青葉の杜 / 青葉の郷	施設長	森 本 洋 行	GH・CH、自立訓練事業所		
	24	児童発達支援事業所ばすてる	管理者	田 口 幹 子	児童発達支援放課後デイサービス		
エ) 相談支援事業所等	25	千歳地域生活支援センター	センター長	奥 貫 あ い 子	千歳市委託相談支援事業所		
	26	千歳市地域包括支援センター	南区地域包括支援センター 社会福祉士	石 垣 恵 子	介護保険サービス	新任委員	

1 人事異動等により交代となりました新任委員の方々をご紹介します。

小松 武彦 様（千歳地域保健室健康推進課 保健係長）

石川 隼人 様（千歳商工会議所 事務局長）

野田 雅裕 様（就労推進室やませみ 就労推進員）

石垣 恵子 様（千歳市地域包括支援センター 南区地域包括支援センター社会福祉士）

の4名です。

上記後任委員の任期は前任者の残任期間である令和2年10月28日までです。

2 部会長選出（はたらく部会）

地域部会「はたらく部会」の部会長であった下川部様が3月末をもって委員を退任され、部会長が空席となっております。

今後の部会運営を円滑に進めるため、協議会設置要綱第6条に定める「専門部会の部会長を会長が指名する」との規定を準用し、荒会長に事務局から打診したところ、「就労推進室やませみにおいて市の委託事業に携わっている野田委員が適任である」とのご指名がありましたので、野田委員の部会長就任について、皆様の承認をいただきたいと存じます。

つきましては、添付しております承認書面への意思表示をよろしくお願いいたします。

平成 31 年度 第 1 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 31 年 4 月 17 日(水) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(大久保相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(松田課長、甲木係長)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)
要 旨	<p>1. 支援課より 地域生活支援拠点等について</p> <p>2. 確認事項(昨年度振り返り、新年度部会方針)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい者支援課より 地域生活支援拠点等について説明があった。</p> <p>(1) 障害者支援課松田課長より、地域生活支援拠点整備における千歳市の方針が説明された。整備目的、必要な機能について確認がある。整備目的としては、緊急時の相談支援機能と短期入所等の充実をすることにより安心を担保できる体制作りを行うため。また、地域生活への移行をしやすいするため体験の場の充実を行うためである。グループホームの枠を年間で買い取って体験の枠として整備している地域もある。</p> <p>必要な機能として「相談」「体験の機会・場」「緊急時の受け入れ・対応」「専門性」「地域の体制づくり」の5つがある。5つの機能全てを満たす事が基本だが、初めから全てを行わなければならないわけではなく、地域の実情に応じて必要な機能から順次進めてゆけばよい。今期の障害福祉計画中に道筋を立て整備をしていく必要がある。</p> <p>整備手法として一つの障害者支援施設が中核となり整備をする多機能拠点型と、市内の福祉サービス事業所の幅広い連携により整備をする面的整備型があるが、全国の整備済み自治体の傾向を見ると85%程度は面的整備型を採用している。千歳市でどうしてゆくかについては相談支援部会等で意見を聞き検討した上で、面的整備型の採用が良いのではと思うが、今後も市を含め関係機関で検討を続けていきたい。厚生労働省から出ている好事例集も見てほしい。今後検討する際の資料については市で用意をする予定。</p> <p>(2) 奥貫部会長から、地域生活支援拠点の検討に向けた専門部会を立ち上げることも案が上がったが、相談支援部会と構成員がほぼ被ることから相談支援部会で行うのが望ましいと自立支援協議会定例会で共有されたことが話された。</p> <p>現在の相談支援部会で行っていることはそのまま継続した方が良いので、通常の部会の他に地域生活支援拠点について話し合う機会を作り、参集範囲も拡大するなどして効率的に進めていけるようにしたい。</p> <p>(3) 福澤相談員から、なぜ今地域生活支援拠点整備なのか、中土井相談員から、どこまでの整備をすることが求められているのか到達点がわかりづらいのではとの質問があり支援課松田課長が回答している。</p> <p>前期の障害福祉計画にも盛り込まれていた内容ではあったが、全国的に進んでいない現状があることから、厚生労働省から今期は行うよう意向も出ている。地域生活への移行</p>

	<p>は以前から言われていることであり、本来ならばもっと早くに整備することが望ましかった。千歳の特徴としてできる拠点づくりを行っていききたいので、協力してほしい。整備のレベルも様々で、極論として現状で整備ができているとする事もできなくはないが、地域に足りていない機能は間違いなくあるので、まず何が必要なのかということ話し合っていきたい。</p> <p>(4)吉田センター長より、高齢の分野では包括支援センターが相談機能としてあり、地域の資源とつなぐ役割として生活支援コーディネーター、医療と連携する機関も整備が進んでいると話がある。</p> <p>(5)自立支援協議会の運営については佐藤係長、地域生活支援拠点整備については甲木係長が担当する。</p> <p>2. 確認事項</p> <p>(1)昨年度振り返り</p> <p>数年来の部会の課題として、地域課題の中から始まった障害福祉勉強会の話合いが大きな割合を占めてしまい、地域課題そのものについて検討する機会が少なくなりました。結果、障害福祉勉強会企画チームを別立てにし、通常部会に参加していない若手職員を構成員に加えバランスを取りながら当日サポート等する形になっている。地域課題については、なかなか活発になりづらい。</p> <p>(2)新年度部会方針</p> <p>障害福祉勉強会の周知方法について、年度初めに年間の予定としてテーマと趣旨を伝え、第1回目の案内をできるだけ手渡しするようにしていたが、以降の連絡がFAXの一斉送信となっており漏れの出ることもあった。改めて周知方法を整備した方が良い。</p> <p>障害福祉勉強会の内容としては詳細の工夫はあれどこれまでと同様の物を基本ベースとする。寸劇は好評だったため今後他の会にも拡大しても良いかもしれない。</p> <p>対象を初任者に設定しているために企画チームには若手を採用しているが、若手ゆえに多くの仕事を振りづらいという面もある。また相談支援事業所職員は日中の時間を作りやすいがその他の事業所では日中は難しいと思われるので、役割分担に偏りが出てしまっているため工夫が必要。</p> <p>今後も障害福祉勉強会の企画を相談支援部会で持っていくのかも検討が必要。</p> <p>相談支援部会の参加メンバーについて、支援課認定係に声をかけた所、事前に予定がわかれば可能との事だった為、今後は必要時連絡をしていく予定。</p> <p>3. その他</p> <p>(1)次回の開催は5月中旬以降で調整をする。</p> <p>(2)障がい者地域自立支援協議会全体会は7月頃に開催予定。</p> <p>(3)今年度の相談支援部会開催方式も前年度同様、月に1回16:00~17:15となった。各機関の業務の都合上実施しない月もある。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年5月23日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、北星病院(水梨相談員)、障がい者支援課(新谷課長、石黒主事)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市から</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 支援課より 地域生活支援拠点等について</p> <p>(1)障がい者支援課石黒氏より、地域生活支援拠点等の整備に向けて、相談支援部会としてどのように課題を整理し、どのような機能を持たせるのか等検討していくため、今後のスケジュールの説明がなされる。</p> <p>令和1年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月～8月 現状把握と課題整理：千歳市にある社会資源の把握、各事業所にアンケート調査を実施、結果をまとめ、8月までにニーズの把握を行う。 どこから手をつけていくのか、予算等意見をまとめていく ・9月 結果をまとめ、第2回協議会定例会に整備案を提出 整備すべき機能を検討し、拠点を担う事業所の役割、果たす機能について必要に応じて自立支援協議会に意見を伺っていく。 <p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 第2回協議会定例会にて最終案の提示、検討・協議・決定 ・年度末に整備完了し、令和3年度からは何らかの形で開始されるため、それに向けて話し合いを行っていく。 <p>以上の大まかな流れで動いていく予定。</p> <p>(2)第1回定例会兼全体会議は7月に開催予定。その際に障がい者支援課よりアンケート調査についての報告を頂く予定。 また、地域生活支援拠点等についての話し合いは不定期とのこと。障がい者支援課甲木係長も出席予定とのこと。</p> <p>(3)地域生活支援拠点等の5つの機能について再度確認の意味で石黒氏に述べて頂く。その中の「地域の体制づくり」について、具体的にどういうイメージでいるのかとの質問が出る。石黒氏より、基幹相談支援センター事業所や委託相談事業所を活用しながら、例えば緊急避難場所の確保、何かあった場合にどういう流れでどこが対応していくのか等地域のニーズに対応できるように整えていくこと、とあげている。 その実現のために取り組む内容については今後検討していく。</p> <p>その他、ある程度出来上がっている現状の中、それぞれの点と点を結ぶような役割のコーディネーターを置く、ということで整備が進むとするのか、ある程度の役割を担っているところに新たな役割を付加していく等、千歳市としてどのような体制が望ましいか検討していく。</p>

また、地域生活で困った時に相談できる拠点の場所や利用方法等わかりやすく周知していくことが大切との意見も出ている。

2. 障がい福祉勉強会について

現段階では日程や会場は未定。

前回の話し合いの中では、大枠では昨年度と同様年4回の開催を予定している。第1回目は市の概況と自立支援協議会について、7月に開催予定。講義・グループワーク・交流などを行う。

その他、まだ日程は決まっていないが、7月のどこかで午後から学校の進路連絡会が行われるため、先生方のご都合しだいではご参加頂くのも良いかもしれないとの意見がある。早めに日程等を決めて、広く周知していく。

3. 地域課題について

多機関でケースに関わる場合、支援のタイミングやどのようにつないでいくのが良いのかという意見があった。医療機関から受けたケース等を地域につないでいくタイミングや、ひとつの機関で終結まで抱え込んで困難を感じている事業所もあるのではないか。

- ・例えば65歳以上の精神疾患が疑われる高齢者をどのように医療機関につないでいくか。
- ・高齢の親と障がいのある子への支援で、介護保険サービスと障がい福祉サービスそれぞれの事業所が対応しているケースがあるが、両者のサービスでは考え方が違うのか、それぞれどこまでできるのか、あいまいな面がある。ご本人の役割としてできるところはご本人が行うという線引きはあるが、サービスに隙間が生じているのでは。関わる際には経済面や家庭状況等様々な面を勘案しながら進めている。
- ・精神障がい者に対する支援～就労支援事業所・相談支援事業所と医療機関の連携について、サービスの開始の時点で病院が情報を知らないこともある。それがご本人にとっていい場合もあるが、症状が悪化した時のスムーズな対応につながり、いざという時に心強いこともある。ご本人の了承を得た上で、就労支援事業所と医療機関の間で情報共有を行いながら連携していくことが緊急時には大いに役立つと思われる。
- ・若年者の相談、発達障がいに関するお問い合わせ、発達検査の希望等の相談が増えてきている傾向にある。
- ・不登校児の行き場・居場所・支援がなかなかない。また、社会的引きこもりについて、ご本人が病院の受診や外に出るきっかけを見出せずにいるため長期化・重症化していく。

4. その他

(1) 次回の相談支援部会開催の日程については、各機関の予定を考慮し、6月中旬以降18日・19日・20日以外で調整をする。

(2) 次回話し合いたいテーマ・内容について～自宅で生活されている重度心身障がいの方の緊急時の対応について。主介護者の突然の入院などにより緊急的にご本人の受け入れ先が必要な場合、事前にどのように取り決めているのか、現実問題として千歳市内・近郊区町村では受け入れ先がなく厳しい状況。事例などを交えて現状や課題・今後の体制作り等について話し合うこととなる。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第3回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年6月19日(水) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(大久保相談員・宮坂相談員)千歳こぶしくリニック(松田相談員)、障がい者支援課(新谷課長)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市から</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 千歳市から</p> <p>(1) 自立支援協議会の定例会兼全体会議の開催日程について 今年度は議会の関係上7月に開催される予定であったが、7月25日(木)の午前中に決定となった。案内については後日事務局から送付、内容の詳細は7月上旬に開催される事務局会議で話し合われるが、例年相談支援事業所からの相談に関する報告、各部会の報告・方針の発表、協議会の全体像の確認等が行われる。</p> <p>(2) 議会の傍聴から(市議会議員落野氏による質問の一部) コミュニケーション条例の策定に向けて 障がいのある方がコミュニケーションツールを活用しながら、生活しやすくなるような条例の必要性について、興味・関心を持つ人が多くいることで市として取り組む方向で動いて頂けないか、とのお話があった。 千歳市手話言語条例の策定から1年数ヶ月経ち、活動状況等はどうか。 千歳市～手話通訳者1名増員、リーフレット作成や記念講演等啓発活動、手話講座の受講率は増加傾向にあることなどから、地域に根付いてきているのではとのこと。</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 先日、勉強会企画チームのメンバー4名が集まり、今年度の年間予定・テーマについて話し合った。基本的には前年度を踏襲する形で行うこととし、経験の浅い方もより気軽に参加できるような研修を目指し企画を進めていく。また、内容を福祉サービスに限定せず、就労であれば福祉的就労の他一般就労について、住まいについても1人暮らしのケースを取りあげる等幅広く設定していく予定である。</p> <p>(2) 障がい福祉勉強会 第1回目について 日時は7月17日(水)の18時～20時、会場は千歳市総合福祉センター402号室に決定。17時半から受付を行い、開会挨拶を千歳市障がい者支援課の新谷課長に依頼。講義のテーマは昨年度同様「千歳市の概要と特色」、「地域自立支援協議会の機能と目的」の2つであり、講師は千歳市障がい者支援課自立支援係の石黒主事である。その後交流会(グループワーク)を行い、勉強会終了後は希望者で懇親会を行う予定である。</p> <p>(3) 勉強会の案内の周知方法・周知範囲について 送付先の事業所リストを確認し、各事業所への訪問時や、各部会の時に配布、FAX送信も行い周知していく。</p>

3. 地域課題について

(1) ひきこもり支援について

・相談支援事業所では、ひきこもり傾向にある10代後半から20代の若年層の方・そのご家族からのご相談が多くなっているように感じる。関わりの流れとしては、定期的に面談を重ね、関係性を築いていきながら、何かを始めるきっかけ作りの場へとつないでいく。

・18歳未満から関わりを始め、18歳になってから障がい福祉サービス利用へとつないでいった時、事業所の利用を続けていくことが逆に負担になり、ご本人の状態の悪化につながるケースもある。そのため、実際に通所や就労を始める前にリスクも含めて考え、よく検討しながらすすめていくことが大切との話が出る。

・勉強の仕方がわからない、人とどう接したらよいかわからないという困りごとの相談を受けることがある。最初のきっかけづくりとしての場や情報の提供、ボランティア等の見守りがある中で、仲間づくりや何かを始めていける方向に向かっていけるようなことをできたら、との話が上がる。

・学びの場として、チャレンジ塾は生活困窮者世帯が対象であるが、あるケースで問い合わせをしたところ、大学のボランティアサークルに所属する学生が何名か対応可能とのお返事を頂いた、ということがあった。

・ご本人やご家族が障がいについて受容が困難なケースや、支援に対する拒否感等により、適切な病院受診や支援につながらずに状況の改善がなされることなく経過していくケースも存在している。

・ひきこもりと決めつけず、次につなげる一歩として、何かできることはあるのではないかと、その後の選択肢を広げられるような取り組みについて、今後も検討していきたい。

4. その他

(1) 会議の参加率が低い状況が続いているため、日程調整を早めに行うようにするとともに、各機関に対するお声かけを改めて行っていく。

(2) 次回の会議のご案内の際に、地域課題に関する発案や企画の持ち寄りを提案することを予定。また、他の地域の様々な取り組みの等情報収集を行い話し合いに活かしていく。

(3) 障がい福祉勉強会当日は企画チームが中心となり動いていくが、グループワークのファシリテーターを相談支援部会の参加者にもご協力して頂く。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和1年度 第1回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	令和1年7月17日(水) 18:00~20:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内19機関35名(事務局含む)
要 旨	<p>1.開会挨拶</p> <p>2.講義</p> <p>3.交流会</p>
会議内容	<p>【テーマ】「自立支援協議会と千歳市の現状を知ろう！」</p> <p>1. 開会挨拶 千歳市障がい者支援課 新谷 正 課長</p> <p>2. 講義 千歳市障がい者支援課 自立支援係 石黒 奨 主事 (1)「地域自立支援協議会の機能と目的」 地域自立支援協議会は、障害者総合支援法を法的根拠とし、市町村ごとに設置することが定められている。その目的や具体的な活動内容について、協議会の6つの機能、概要、構成員、所掌事務についての説明がある。また、専門部会や進路連絡会議についての説明があり、地域部会の概要について各部会長等から説明がある。 (2)「千歳市の概要と特色」 千歳市の概要として、名前の由来や面積、人口について説明がある。人口については、今まで目標に掲げていた9万7千人を昨年度に達成し、これからは10万人を目指していくとの話がある。また、千歳市内には石狩管内でもトップクラスの生産額を誇る農業生産地帯があり、酪農が盛んに行われている地域もあることや、企業と連携した農業が行われているところもあるとの説明がある。さらに工業出荷額は年間約21兆円で、道内4位である。その他、各国における世界遺産の登録数やキウス周提墓群などについてのクイズを交えながら進められた。</p> <p>3. 交流会 1グループ7名の5グループに分かれ、講義終了後に交流会をしている。 はじめに自己紹介とこの夏やってみたいことを話し、2テーマについて各グループで話しをしている。 テーマ1「この仕事に就いたきっかけ」 テーマ2「ストレス解消法」</p> <p>最後にアンケートを回収している。 (1)講義について ・色々な部会があることを知らなかったなので、勉強になった。 ・石黒氏のお話がとてもわかりやすく良かった。 ・千歳について知らないことも聞くことができて良かった。</p>

	<p>(2)交流会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃仕事上でしかお話できなかった方々と、仕事以外のお話（交流）ができて大変良かったと思う。 ・新たなお縁に感謝です。 ・色々な事業所の方の話を聞くことができて楽しかった。 ・ファシリテーターの方が上手にまとめてくださり、楽しい時間を過ごすことができた。 ・横のつながりができていくことを嬉しく思う。 ・会話で笑顔が広がり、良い交流会だった。 ・様々な事業所の方と話すことができ、気づきや学びにつながった。 <p>(3)今後取り上げてほしいテーマ等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースについて実際に聞いてみたい。 ・各事業所での困りごとについて、グループワークをしてほしい。 ・それぞれの支援の中での困り感や学びとなったことなどのケースの話や、Chip・せらび・所長さんたちの話をたくさん聞きたい。 ・障がい福祉サービスの種類・窓口・利用の方法など具体的なこと。
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第4回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年 8月 22日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(館山相談員・宮坂相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(佐藤係長)、夢民(戸田氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から(全体会報告他) 2. 「地域生活支援拠点等」に関する意見交換 3. 障害福祉勉強会について 4. 地域課題(情報交換)について 5. その他
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から(全体会報告他) <ul style="list-style-type: none"> 第1回自立支援協議会の定例会兼全体会議(7月25日)についての報告 (1)今年度の障がい者福祉に関する予算、成年後見センター設置に関する予算が承認された。これまで相談支援事業所が個別に受けていた成年後見に関する相談を社会福祉協議会に実務を委託する。センター設置は10月中旬頃となる予定。今後、成年後見の利用を希望される方は社会福祉協議会内に設置される成年後見センターへつなぐこととなる。 (2)千歳市総合福祉センター4階に、現在1階に敷かれている黄色のプラスチック製ソフトマットを設置することになった。 (3)千歳市障がい者総合支援センターChip・千歳地域生活支援センター・就労推進室やませみから、平成30年度の事業実績の報告があった。また、各部会から平成30年度の年間活動報告と今年度の活動方針についての報告があった。 2. 「地域生活支援拠点等」に関する意見交換 <ul style="list-style-type: none"> (1)障がい者支援課佐藤係長から、地域生活支援拠点等とは何か、必要な機能、整備手法の種類、協議・整備スケジュール等について説明があった。また、地域の実情を鑑み、初めからすべての機能を整備する必要はなく、現状把握を行いながら不足している機能についてPDCAサイクルにより最終的な整備を進めていくとの説明があった。その他、居住系の9事業所に対して実施したアンケート調査の回答について報告があった。「地域で不足している社会資源について」の問いに対して、障がい特性に合わせた生活の場(グループホーム等)との回答が多く見られた。 (2)まずは千歳市の現状では、5機能のうちどれが不足しているか、整備していく上で優先度等勘案しながら取り組んでいき、全ての機能を整備することを目指していく。関係機関それぞれの立場からの視点で分析していくことで、より具体的に現状や課題について把握していくことが可能となると思われると話し合われた。 3. 障がい福祉勉強会について <ul style="list-style-type: none"> (1)第1回障がい福祉勉強会について

	<p>市内 19 機関から 35 名の参加があり、アンケート結果としては、「千歳市の概要等講義が聞きやすかった」、「交流会では良いグループワークとなった」等の感想があり、内容的にも良かったという意見が多かった。</p> <p>(2)第2回障がい福祉勉強会について</p> <p>日時：令和1年9月27日(金)、18:00～</p> <p>会場：千歳市社会福祉協議会 2階会議室</p> <p>テーマ：「就労支援の実際について知ろう！」</p> <p>実践報告(支援の内容等)：晴レルモキッチン(就労継続支援B型事業所)、株式会社ミナモト(就労継続支援A型・B型事業所)、石狩障がい者就業・生活支援センター</p> <p>プログラム構成について：講義(15分)、グループごとに自己紹介・テーマに沿った課題・問題意識等についての話し合い(15分)、実践報告(1事業所当たり20分程度×3事業所=60分～)、グループワーク～報告を聞いての振り返り・質疑応答等(30～40分)、時間がおした場合を見込んで、終了時間を20:10に設定しておく。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はたらく部会の視察研修(9月5日)でも、晴レルモキッチン・株式会社ミナモトの見学等が組まれている。そこも踏まえての障がい福祉勉強会の周知を行う。 <p>4. 地域課題(情報交換)について</p> <p>(1)地域の状況について確認</p> <p>「小規模多機能型ホーム くらしさ千歳」～今年6月1日から生活介護・短期入所・自立訓練の指定を受けている。</p> <p>「イグルー恵み野東」～一軒家タイプのグループホーム、男性対象で住宅街(恵み野駅から徒歩20分)空室あり。女性棟は準備中。</p> <p>「りんごハウス」～経営者が変わり、満室状態。</p> <p>(2)障がい福祉サービスから介護保険サービスへ移行となるケースについて、障がい福祉サービス利用者が介護認定で要支援1・2を受けた場合、介護保険事業所の事業内容によって対応できない場合があり、調整が必要になるケースがある。</p> <p>障がい福祉サービス利用者が介護認定を受け、介護認定を受けていない同居の家族がいる場合、介護保険サービスでは家事援助でサービスに入ることができないため、移行後の支援の内容について事前に十分な検討をすることが必要である。</p> <p>相談支援事業所が介護保険サービスの対象となりそうな利用者から相談を受けた場合、地域包括支援センターへつなぐことでスムーズな移行や把握漏れの防止にもつながると思われる。</p> <p>5. その他</p> <p>次回開催日程の調整について～早めに候補日を提案し日程を確定。</p> <p>その際、重点的に話し合う内容等についても併せてお知らせする。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第5回相談支援部会 報告	
日 時	令和元年9月18日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員) こども療育課(宮坂相談員) 千歳こぶしクリニック(松田相談員) 障がい者支援課(小島係長) 夢民(阿部氏) 千歳市障がい者総合支援センターChip(新村・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市障がい者地域自立支援協議会議についての報告(奥貫部会長より)</p> <p>2. 障害福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題(情報交換)について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議についての報告(奥貫部会長より)</p> <p>(1) 第2回千歳市障がい者地域自立支援協議会が9月10日に開催された。各部会長から報告があり、質疑応答の際には委員の方々からいくつか質問が出ていた。</p> <p>(2) 4月から8月の相談支援部会の活動報告を行った。委員から、健康診断等での病院受診同行の障がい福祉サービスと介護保険サービスの違いについての質問があった。障がいを持つ人が65歳を迎えても、今までと同様のサービスを継続して使えないものかとの内容であった。回答として、セルフプランの方も相談支援事業所が計画作成で関わっている方も、65歳を見越して早めにご相談いただくことで、地域包括支援センターや行政とのつなぎをとり、切れ目なくサービス利用を継続できると思われるとの説明があった。</p> <p>(3) 新たに設置された手話言語条例推進専門部会の佐藤部会長より、手話言語条例の策定にともない、今後どのように地域に広めていくか、普及に向けた取り組みについての活動を行っており、それらについての報告があった。</p> <p>(4) 不登校児の日中の行き場について、放課後等デイサービス等の利用や通学に向けての対応等、現状について質問があった。それについて、千歳市としてはケースに応じて柔軟な対応を行った事例もあるが、福祉サービスの利用についての考え方や対応は市町村により異なる現状があるとの回答があった。</p> <p>全体を通して、個別の案件として対応が必要なものから、全体で協議すべき内容について、様々な質問が出ていた。</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>本日現在で13名(相談支援部会・勉強会担当者以外)の申込みを頂いている。就労支援の実際について講義を行う回は、例年最も参加申込みが多くなっているが、昨年度と比較するとかなり少ない状況である。申込み締切りまで様子を見ながら、再度周知を行っていく。また、9月5日に開催されたはたらく部会主催の視察研修では事業所の概要等の説明が主であったが、今回の勉強会では具体的な支援の内容・実践方法についての講義が聴ける場として周知していく。これから、講師を依頼している方々から頂いた資料の印刷等も分担して行い、準備を進めていく。</p>

3. 地域課題（情報交換）について

- (1) 10月からの幼保無償化に伴いニーズが増えてくると思われるが、受け皿の不足が懸念される。通園センターの空きがなくなっている。民間の事業所も増えているが、どんどん埋まっている状況である。必要性の見極めが必要となってくるかもしれない。
- (2) 相談支援事業所より、1人の利用者に関わる期間が長くなることにはメリット・デメリットがあると感じる。市の窓口の印象としては、相談件数はそれほど変わらないが、困難ケースが増えてきていると感じる。
- (3) 障がい者支援課より、同行援護の支給決定が増えてきており、区分を出さずに支給決定を行うケースもある。高齢の視覚障がいの方の場合、介護保険のケアプランに同行援護を載せていただく。また、居宅介護の事業所は同行援護も行うとされているが、同行援護の研修を受けている人が少ないため、なかなか受けてもらえない現状である。
- (4) 障がい者支援課より、支給決定数では就労が多い。障がい者の働きたいというニーズを感じている。また、就労B型は年齢制限がないため80歳台の方に支給決定を行ったケースもある。就労に関しては若年者と高齢者の二分化してきているように感じる。
- (5) 医療機関より、受付状況が混み合っており、予約を入れてから受診まである程度待っていただくことが多い。また、医師の診断書について、基本的には本人のやる気を尊重し、本人の希望に沿うように、医師の見立ても含めて書いている。
- (6) こども療育課より、千歳は障がい児の民間相談支援事業所がない。また、計画相談支援事業所が少ないため、幼児の間は計画を立てているが、困難ケース以外は小学生に上がったならセルフプランとなっているケースが多い。障がい者支援課より、セルフプランの方が相談に来た場合、事業所探しが難航しそうなケースは相談支援事業所につないでいる。
- (7) 介護保険サービスと障がい福祉サービスの併用について、上乗せで居宅介護を利用している方の場合、ヘルパーが行うサービスの内容に差異はほとんどないにもかかわらず、ケアマネジャーの障がい福祉サービスに対する苦手意識があるように感じる。
- (8) ひきこもりのケースについて、以前は保健センターからの相談が多かったが、今は相談支援事業所に直接相談頂くことが増えてきている。ひきこもりの方への支援として利用できる福祉サービスはないため、社会に出るきっかけの一つとして就労B型を利用していきたい等あれば進めていきやすい。

4. その他

- (1) 次回10月中旬頃に開催予定、日程調整を行っていく。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度第2回 相談支援部会 障がい福祉勉強会報告	
日 時	令和元年9月27日(金) 18:00~20:15
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内29機関48名(事務局含む)
要 旨	<p>1. 講義</p> <p>2. 実践報告</p> <p>3. グループワーク</p>
会議内容	<p>【テーマ】「就労支援の実際について知ろう！」</p> <p>1. 講義「障がい者が利用できる就労サービスについて」 千歳地域生活支援センター 福澤 健一 氏 就労継続支援(A・B型)、就労移行支援についてそれぞれの特徴や対象となる利用者のイメージについて説明があった。また、就労移行支援事業所が担う役割の一つである就労アセスメントの概要について説明があった。そのほか、障がい者就業・生活支援センターについて、概要等支援内容について説明があった。</p> <p>2. 実践報告</p> <p>(1) 就労継続支援B型事業所 晴レルモキッチン 米澤 緒子氏 事業所の理念や活動内容、活動目的、利用対象者、職員体制、1日の流れについての説明があった。また、通所者それぞれが抱える疾患や不安要素に対して必要とされる支援が多岐にわたり、その点に留意が必要であるという話があった。 そのほか、作業内容や工賃アップのため新たに始めた作業の紹介があり、最後には、事業所として大切にしていることとして、アセスメント、関係機関との連携、利用者との関係づくり、配慮について話があり、自立に向けてコミュニケーション能力の向上や自己有用感を得ることを目指しているとの内容であった。</p> <p>(2) 就労継続支援A型事業所 株式会社ミナモト 今井 涼氏 事業所別では多機能型サービスに該当し、就労継続支援A型とB型を行っているとの説明があった。作業内容は大きく2つに分けられ、1つは有料老人ホームの食事作り等調理全般と清掃作業(有料老人ホーム、アパート退去後の清掃、工場・会社事務所等)であるとのことであった。また、登録人数は全体的に増加しているとの話があった。 課題としては、個人の作業能力が高くなってきているが、周囲との関係性をうまく築くことができずに利用継続が難しくなってしまう方が多く、そのようなケースへのフォローアップをどのようにすべきか考えているところであるとのことであった。 なお、今後の展望として、職場環境等ハード面の整備、生産性の向上のため、来年度には事務所の移転・拡張を予定しており、今後はA・B型ともに定員を20名ずつ増やす予定であるとの話があった。</p> <p>(3) 石狩障がい者就業・生活支援センター 里見 悠子氏 センターの概要として、石狩圏域の就労相談を担当し、協議会への参加や勉強会の開催等を行っている旨の説明があった。また、就労支援のプロセスについての主な流れについて、具体的な事例が紹介され、利用者への聞き取りの中で、本人の希望や強み、就労意欲の有無等に注目しながら、本人像の把握を行っていくとの説明があった。また、GATB(一般職業適</p>

性検査)を実施し、その結果を本人と一緒に確認、そこから、過去の就労でうまくいかなかった要因や、本人の長所が活かせる分野を探っていき、主に人間性・理解力を見ていくとの話があった。

就労全般における課題としては、定着支援期間経過後のことや指定を受ける事業所数が伸びないことや、障がい種別の平均勤続年数の推移から、精神障がいを持つ方の就労定着が難しいとの説明があった。

3. グループワーク

1グループ7、8名の6グループに分かれ、各グループでファシリテーターの進行のもと、自己紹介、講義・実践報告を受けての感想等を共有している。その後、グループワークで出た意見を各ファシリテーターから発表している。

最後に参加者にアンケートの記入依頼、回収している。

(1) 講義・実践報告について

- ・実際の事業所の実態が聞けて勉強になった。
- ・就労支援について、現状の大変さが勉強できた。
- ・他の事業所の取り組みが聞けて良かった。
- ・とても勉強になったので、また参加したいと思う。
- ・最初に概論があったので、現場の話も理解しやすかった。
- ・対象者イメージがわかりやすく良かった。
- ・自らの偏りを確認できる機会になったと思う。

(2) 勉強会全体を通しての感想

- ・自分の仕事に持ち帰って活かしていきたいと思った。
- ・就労定着支援の制度があることを初めて知り、勉強になった。
- ・ネットワーク構築に良いと思った。
- ・他の事業所がどのようなことをしているのか、詳しく聞けて良かった。
- ・千歳市の事業所の種類について把握できたので、対象者に紹介したいと思う。

(3) 今後取り上げてほしいテーマ等について

- ・発達障がい者(児)(若年層)への支援制度
- ・虐待に関するテーマ
- ・グループホームや就労継続での困難事例の発表を聞いてみたい。どう解決するかなどの意見を聞きたい。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第6回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年 10月24日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(小島係長)、こども療育課(館山相談員)、夢民(戸田氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・新村・吉田)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から 2. 障がい福祉勉強会について 3. 地域課題(情報交換)について 4. その他
会議内容	<p>1. 千歳市から(障がい者支援課小島係長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センターの開設について 10月23日に千歳市社会福祉協議会内に設置された。11月27日に開設を記念した講演会が開催されることのお知らせがある。 <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>9月27日に今年度第2回目の障がい福祉勉強会を開催した。終了後、企画チームで振り返りを行っている。</p> <p>次回の開催日は12月6日(金)、場所は福祉センター402号室を予約している。</p> <p>内容としては、GH等の住居資源についての基礎的な学びと実践報告とする予定である。流れとしては、前年度同様、前段として基本的な知識・概論の講義を行い、実践的な内容の報告、グループワークを行う。実践報告の内容についてはまだ定まっていないが、例えば1人暮らしが難しかった人がGHで順調に生活できている、もしくはGHから1人暮らしへ進んだケース等、1つのケースで移り変わりが見える事例があればわかりやすいのではとの意見が出たので、参考にしながら検討していく。ケースの選定・講師依頼等に関しても、これから進めていく。</p> <p>3. 地域課題(情報交換)について</p> <p>(1) 前回から出ているものとして、児童から障がい者、障がい者から高齢者へとライフサイクルの変化に伴い利用する制度やサービス等も変わっていくことがあがっている。利用者が65歳を迎えて、介護保険サービスへ移行すると、障がい福祉サービスの計画相談は終了となり、ケアマネジャーに引き継がれる。市町村によってはダブルマネジメントを行っているところもあるが、千歳市としては今後もケアマネジャーが作成するケアプランの中へ盛り込む対応でいくとの話がある。</p> <p>(2) 最近の傾向として、新規の相談の他、現在サービスを利用している方で、相談支援を受けたいとの問い合わせが増えてきている印象を受けるとの話がある。介護の上乗せについてはほとんどが身体介護であり、介護保険サービスで足りない部分を障がい福祉サービスで補っているとの説明がある。その他、就労系のサービスの申請が増えてきている印象</p>

	<p>を受けるとの話がある。</p> <p>(3) 学校の普通級に通っていて、児童デイサービスを利用されている方等、今までにないケースも増えてきている。</p> <p>(4) 将来の障害基礎年金の申請を見据えての病院受診について、20歳になる2,3年前から通院しているケースもあるが、数ヵ月前程度で十分であるとの話が出る。また、支給対象になるかならないかのグレーゾーンの方からの年金についての問い合わせも増えている傾向にあるとの話がある。</p> <p>(5) 相談支援事業所について、まだまだ市民の方々に周知されていないと感じている。訪問での面談を希望されるケースは少なくない。気軽に寄れる印象はあまりないのかもしれない。</p> <p>(6) 地域生活支援拠点等の今後の進め方について、近々担当者間で打合せを行う予定であり、その後相談支援部会でも具体的に進めていく。</p> <p>(7) 就労継続支援B型事業を2ヵ所等、サービスの併用については、本人の中で明確な目的があり、やむを得ない事情がある場合のみ可能とするケースもある。</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 次回開催日程については、千歳市障がい者地域自立支援協議会の定例会が11月21日のため、その前後で調整を行っていく。</p> <p>(2) 次回の会議の際に、成年後見制度に関わるもので、各自で受けている相談・ケースについての現状等持ち寄って話し合ってみる。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第7回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年 11 月 27 日(水) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長))、千歳こぶしくリニック(松田相談員)、障がい者支援課(小島係長)、こども療育課(宮坂相談員)、夢民(阿部氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から 2. 地域生活支援拠点等に関する意見交換 3. 障がい福祉勉強会について 4. 地域課題(情報交換)について 5. その他
会議内容	<p>1. 千歳市から(定例会報告ほか) 主に各部会の活動報告が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援部会～勉強会の報告や地域課題について ・こども部会～座談会の開催と報告 ・はたらく部会～視察研修の報告と合同説明会のお知らせ ・地域生活部会～10月に研修会を開催し、災害のドキュメンタリー映画の上映、災害時の対応について話し合われた。 ・手話言語条例推進部会～今後どのように進めていけばよいかの検討 <p>その他、委員から成年後見支援センターについて質疑があった。</p> <p>2. 地域生活支援拠点等に関する意見交換 地域生活支援拠点等に必要な5つの機能ごとに、現状と課題を話し合った。</p> <p>相談～家族や事業所が抱え込んでしまったがゆえに状況が悪化してから相談支援事業所に相談が入る困難ケースが多いため、適切なタイミングで迅速に対応が行われる必要がある。児童の場合は健診時につながることが多い。</p> <p>現状として、どこに相談しているかわからない場合、まず市役所に相談がいくことが多い。市・相談支援事業所含めた各機関それぞれの役割の明確化により、相談先もわかりやすくなるのではないかと。現在の委託相談支援事業所の機能の向上のために基幹相談支援センターの整備の検討も必要となってくるのではないかと。</p> <p>体験の機会・場～入院中の方が退院後の練習として行う等、支給決定前に実際にサービスを経験する場として、空き部屋の確保・有効活用のために必要な方策を考え準備を進めていく必要がある。</p> <p>緊急時の受入れ・対応～虐待案件に関しては、当初3つの施設と受入れに関して取り決めを行っており、空きがあれば可能となっている。その他、1人で過ごすのが不安で誰かの見守りが必要と思われる方の一時受入れについて、個人情報の扱いや職員配置、食事の用意、消防法上の手続きの確認等準備・検討すべきことは様々ある。</p> <p>その他、人員配置に関しては、登録制にすることで特性に応じた対応が可能となるのではないかと。</p>

専門性～研修の開催等により、専門的な知識・技術を持つ人材を養成することで、人材不足解消を目指していく。千歳市手話言語条例の制定に伴い手話講座への参加者が増加しているとの話を聞く。障がい福祉勉強会を相談支援部会から切り離して、各種勉強会や研修会の事務局として研修部会を立ち上げるのはどうか。

地域の体制づくり～様々な分野の機関が関わる必要があり、各部会同士の横の連携・情報共有を行っていくことが重要である。

今後、5つのそれぞれの機能について話し合う機会を作り、関連する事業所へ呼びかけてみる。その他、例えば実際の困難事例をあげて、足りない部分の把握や改善のために必要なことを話し合うことでより具体的に考えることができるのではないか。

3. 障がい福祉勉強会について

(1) テーマを「障がい者の暮らしを支える支援について」として、市内の各事業所へ案内をしている。申込みの締め切りは12月2日で、本日現在で11機関、20名の申込みがある。参加者状況の傾向としては、居宅介護事業所や地域包括支援センターからの申込みを多くいただいている。

(2) 講義を千歳市障がい者総合支援センターChip 横山センター長、実践報告を共同生活援助事業所 いずみ寮 開発 氏、訪問看護ステーション わかち愛 田口 氏に依頼している。当日の流れとしては、講義が15～20分程度、実践報告が1例あたり30分程度、残った時間でグループワークを行う予定である。

(3) 講義では、障がいを持つ人ができない部分を助けてもらいながら、地域で自立した生活を送るために様々な支援があるという話をする。

(4) 実践報告では、グループホームで暮らしながら地域で生活を送る障がい者の現状・課題や時代の移り変わりとともに施設入所からグループホーム、アパートでの一人暮らしへと変わった様々な事例について話していただく予定である。また、訪問看護の支援によって利用者が安心して地域生活を継続できていることや身体面だけではない訪問看護の果たす役割等について話していただく。

4. 地域課題(情報交換)について

成年後見センターが実際に動き始めた段階でまた話し合っていく。成年後見制度を利用している具体的な事例等あれば、次回以降話し合っていく。

5. その他

次の開催日について、12月の3週目で候補日をお知らせすることにする。参加人数が少ない場合は1月中旬頃に再度設定することとする。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第3回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	令和元年12月6日(金) 18:00~20:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内20機関38名(事務局含む)
要 旨	<p>1. 講義</p> <p>2. 実践報告</p> <p>3. グループワーク</p>
会議内容	<p>【テーマ】「障がい者の暮らしを支える支援について学ぼう！」</p> <p>1. 講義「障がい者の暮らしを支える支援について」 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀 障がいの有無に関わらず、誰もが望む生活を送ることを求めており、障がいを理由にその実現が妨げられるようなことがあってはならない。障がいを持つ人が望む生活の実現に必要な課題解決のために様々な支援があり、具体的なサービス活用の例などの説明、利用者の目標達成・課題解決に向けて、支援者がその思いに寄り添いながら支援を継続していくことへの意義について話があった。 また、『障がい者が利用できる居住系サービスについて』資料が配布された。</p> <p>2. 実践報告</p> <p>(1) 共同生活援助事業所 いずみ寮 開発 勲 氏 社会福祉法人千歳いずみ学園のグループホーム開設までの経緯や現在の事業体制について、現在の利用者の生活の様子などを紹介いただいた。</p> <p>(2) 訪問看護ステーション わかち愛 田口 さつき 氏 ステーション開設の経緯や医療・看護と地域で生活する当事者との関わり、看護の範囲を超えて支援を行っているなどの話があった。</p> <p>3. グループワーク</p> <p>1グループ7、8名の5グループに分かれ、各グループでファシリテーターの進行のもと、自己紹介、講義・実践報告を受けての感想や意見等を出し合い、話し合いを行った。</p> <p>参加者アンケート</p> <p>(1) 講義・実践報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームや訪問看護の実態を知ることができて大変勉強になった。 ・様々なニーズを持つ方が地域で暮らすためのサービスを利用していることを改めて認識した。 ・表現の奥に求めているものの本質は何かを見極め、ニーズに対して支援していきたいと感じた。 ・それぞれ違った角度から生活の場での支援について語られ、理解が立体的になったように思う。 ・どんな方でも普通の暮らしができたらいいなと思った。 ・理想の生活・現実の生活が考えられるように、理想の仕事(作業)・現実の仕事(作業)を

	<p>利用者と一緒に進めていけたらと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できること、できないことの見極めが大変だと思うが、できる限りのことを行っていきたいと思う。 ・他のグループホームのお話や事例を聞くことができ、勉強になった。知的障がい者に特化した資格があると聞き、勉強してみたいと思った。 <p>(2)グループワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援機関からの視点での情報交換は、自分にはない考えもあったので、大変参考になった。 ・時間が短く感想のみになってしまったのが残念。もっと話し合えたら良かった。 ・それぞれの職種が働く場での苦勞の共有ができた。理想と現実、社会的な規範のバランスの難しさを感じた。いいグループワークだった。 ・時間もなく、ほぼ自己紹介のみで終わってしまったので、何か方向付けがあっても良かったと思う。 ・様々な職種・立場の方の率直なお話を聞くことができ良かった。 ・ゆっくり話が聞けて良かった。 ・時間枠 15分でちょうどよかった。 ・グループワークの中で出た「制度のないところでの福祉が本当に必要な支援である」との言葉が心に響いた。 <p>(3)今後取り上げてほしいテーマ等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の親(特に知的障がいを持つ子の親)の気持ちや様子を知りたい。 ・1つのケースについてグループでの事例検討など。 ・障がいについての初歩的・基礎的なことが知りたい。 ・仕事に向き合うにあたってのストレス発散法 ・利用者との接し方・支援について聞いてみたい。 ・事例を深めて、地域での生活についての課題などがまとまると良いと思う。 ・介護と障害の連携の事例 ・障がい者が単独で地域生活(通院・買い物等)をする際の地域との関わり方。職員が同行することを求められるが、本人は1人で行くことに意義を感じている。
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第8回 相談支援部会 報告	
日 時	令和2年1月24日(金) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、障がい者支援課(小島係長)、夢民(戸田氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から 2. 障害福祉勉強会について 3. 地域課題(情報交換)について 4. その他
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千歳市から <ul style="list-style-type: none"> 2月19日に今年度最後の定例会が開催される旨報告があった。 2. 障がい福祉勉強会について <ul style="list-style-type: none"> (1)12月に行なわれた第3回障がい福祉勉強会のアンケート結果について報告があった。企画チーム内での振り返りの中では、訪問看護事業所からの話で、個別の支援の現状についての話をもう少し聞きたかったとの意見が出たとの報告があった。 (2)参加者の傾向から、医療・介護保険分野と障がい分野の連携・情報共有等、参加者のニーズに沿った内容の調整・検討が求められるのではないかとの話があった。 (3)次回の開催日程は2月28日(金)、場所は福祉センター402号室に決定となったとの報告があった。また、例年第4回目は相談支援をテーマに寸劇を行っており、今年度も行う予定である。詳細についてはこれから決めていくが、内容としては、サービス利用の流れやアセスメントについて、講義や演習を行い理解を深められるものと考えている。 全体的な流れとしては、寸劇の合間にグループワーク・演習を行い、最後に計画相談支援・サービス利用の流れについての講義を行う予定である。 (4)次年度の体制・構成メンバーについて検討しているが、時間の確保が難しく、人手不足等の理由で依頼できる事業所が限られてきているのが現状である。例えば新規事業所含め顔つなぎの意味合いも兼ねて声かけしてみてもいいのではとの意見が出ている。 3. 地域課題(情報交換)について <ul style="list-style-type: none"> (1)新規事業所についての情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ラポールハウストセ(就労継続支援B型)～遺品整理を主な作業としている。 ・グループホームの新規開設として4か所の情報が入っている。詳細・情報については今後の部会でも確認していく。また、利用する際には、北海道石狩振興局の許認可の決定されていると確認がとれた段階で支給決定は可能であるとの説明があった。 (2)その他 <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームは今後増えていく見込みではあるが、女性用に関しては不足している状況である。 4. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回以降については、今年度のまとめや次年度に向けての話し合いを行う。
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 31 年度 第 1 回 こども部会 報告	
日 時	平成 31 年 4 月 18 日(木) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	千歳市総合福祉センター 401 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、ブンブン ブンハウス(松田氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女 氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、十彩(尾崎氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、 北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市立北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学 校(古木氏) こども療育課(小林係長)、学校教育課(中川係長)、子育て総合支援センタ ー(近藤主査)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志 鎌相談員)
要 旨	<p>1.部会長挨拶、自己紹介</p> <p>2.活動内容について(前年度振り返り、今年度開催確認)</p> <p>3.情報提供(課題共有)</p> <p>4.その他</p>
会 議 内 容	<p>1.部会長挨拶、自己紹介</p> <p>部会長から、こども部会の開催頻度や内容について説明がある。前年度から担当が 変わり、初参加の方もいるため自己紹介をしている。今年度こども療育課の参加は小 林係長から吉田主査に変わり、副部会長も変更となっている。通園センターで居宅訪 問型児童発達支援の認可が下り、夏頃から事業を進めていく予定と話があった。</p> <p>2.活動内容について(前年度振り返り、今年度開催確認)</p> <p>(1)前年度振り返り</p> <p>レッツスマイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっては事業所以外の行事に参加することが良い機会になっている。 ・冬はボウリング、さけます情報館見学の2コースに分かれそれぞれ楽しむこと ができた。 ・冬について手品等で子ども達が喜んでいて良かった。 ・これまでと違ったアイデアも必要なのではないか。 ・学生ボランティアの確保が今後の課題。 <p>座談会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の参加は少なかったが、支援者も含めて就労までの話しをできる機会で あった。 ・より多くの方が参加できるような工夫が必要。 <p>勉強会(支援者向け学校見学会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所都合により、1名しか参加できなかったため今年度もあれば別の職員に も参加してもらいたい。

- ・以前お世話になった事業所や利用中の事業所職員に学校内で会うことができ、生徒にとっても良い機会になった。

合同説明会

- ・時期は要検討。
- ・今年の春から利用してくれるきっかけになった。

(2)今年度の開催について

今年度の活動内容について年間予定案を基に確認している。

レッツスマイル

- ・夏企画は8月3日(土)か10日(土)。冬企画は1月11日(土)の開催予定。

座談会

- ・日程は9月を予定し、レッツスマイル夏企画参加者の保護者にも案内をできるようにする。

勉強会

- ・昨年度に引き続き、支援者向けの勉強会を検討している。
- ・1月末～2月上旬を予定しているが、学校見学会となれば各学校との調整になる。
- ・日程、内容については次回6月の部会で話し合う。

合同説明会

- ・はたらく部会との調整をして、11月末～12月上旬の開催を目指している。

部会開催時間について

- ・事前に参加しやすい時間帯を記入してもらい、18時以降との意見もあったが今年度も第3木曜日午前中の開催になる。
- ・課題共有で挙げられた課題や事例等があり、部会内で話しきれない場合は、18時以降に時間を取る方法等検討していく。

3.情報提供(課題共有)

(1)事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月～金空き有。土曜応相談。移動支援：月水木空き有。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。移動支援：火水空き有。月木応相談。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。

第二ちとせくらぶ 児童発達、放課後デイ共に火、木～日空き有。月曜応相談。

事業所隣に、ドリームポケットという駄菓子屋がオープンし

	<p>た。事業所名を店員に伝えると、こども一人一回スマートボードの無料体験ができる。</p> <p>(2)課題</p> <p>関係機関や事業所間で一貫した支援やこどもの情報共有が必要と感じるが、放課後等デイサービス利用の方はセルフプランが多く担当者会議があまりない。その中で、事業所間の関係構築や情報共有の手法について今後検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども療育課の相談事業所では幼児の対応が手一杯で、学齢期の計画については少しずつであるが進めている状況。 ・学齢期の計画では福祉サービスに限らず、学校の情報や児童館について等含めて記載している。 <p>4.その他</p> <p>(1)次回開催について</p> <p>6月20日(木)10時～ 場所未定。</p> <p>(2)こども療育課から</p> <p>5月13日(月)10時～就学学習会を開催する。保護者向けの学習会であるが、支援者、事業所職員の参加も可能。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 こども部会 報告	
日 時	令和元年6月20日(木) 10:00~11:45
場 所	千歳市社会福祉協議会 会議室1
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、ちとせくらぶ(上村氏)、第二ちとせくらぶ(白井氏)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市立北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学校(古木氏) こども療育課(吉田主査)、学校教育課(吉見係長)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.レッツスマイル夏企画について 2.座談会について 3.勉強会について 4.情報提供(課題共有) 5.その他
会議内容	<p>1.レッツスマイル夏企画について</p> <p>福祉バスの空状況に合わせ、8月10日(土)に開催する。事前に挙げられていた候補地の中から、混雑予想、天候に左右されないこと、入場料等を鑑みて目的地を小樽市総合博物館に決定している。学生ボランティアについては、千歳市内、近郊の高校、大学、専門学校に依頼する。今後、千歳市社会福祉協議会のプチボラで高校生~大学生を対象に募集することも検討する。</p> <p>周知方法については、各学校の支援級に配付。他、ちゃんとや千歳民報等記事として案内できるところで周知する。役割分担について、ちらしの作成はちとせ療育教室はる。昼食手配は千歳市社会福祉協議会。ボランティア依頼はChipで行う。</p> <p>2.座談会について</p> <p>発達が気になる子どもの保護者を対象に、日頃の悩みや困りごとについてテーマごとの小グループに分かれて情報交換をしていく。</p> <p>9月開催予定。参観日等の学校行事を避けて、会場の空いている火曜日または木曜日の10時~12時で開催する。</p> <p>テーマについて、就学に向けて、福祉サービスについて(利用基準、サービスの違いなど)、就労に向けて(卒業後の支援など)の3つ設定する。支援者のみの話しではなく、実例として支援学校等卒業生の親からも話しが聞けると良いのではないかと意見がある。</p> <p>3.勉強会について</p> <p>1月下旬~2月上旬で支援者向けの学校見学会を開催する。南幌養護学校、千歳高等支援学校、北進小中学校の見学会を予定する。移動時間や見学時間から、南幌養護</p>

学校の見学と、千歳市内の学校見学の日程を分けたり、市内の見学については現地集合解散にしたりするなど、今後調整し決定する。

4. 情報提供(課題共有)

(1) 事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水度応相談。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火金土日空き無。

移動支援：月水空き有。火日応相談。木金土空き無。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。

第二ちとせくらぶ 児童発達、放課後デイ共に月土日空き有。火木金応相談。

みどり台 児童発達：火水空き有。放課後等デイ：土曜日応相談。

(2) 事業所イベントについて

エブリ・ぱすてる

7月27日(土)10時30分～13時30分、春日でこども向け縁日を開催する。

ちとせくらぶ

6月23日(日)10時頃から、第二ちとせくらぶ駐車場でフリースロー大会開催。

どなたでも参加可能。8月11日(日)10時～14時、第二ちとせくらぶ駐車場で盆踊り開催。かき氷等の販売も行う。

(3) 課題共有

性に関して、児童の事業所内で高学年のこども達の会話で性的な発言があった際どのように対応しているか。

- ・ 支援者の反応を楽しんでいるこどももいるため、毅然としている。
- ・ 公の場では恥ずかしいと言うことを伝えている。
- ・ 男女の担任間で、どちらが対応するか話している。

5. その他

(1) 相談支援部会障がい福祉勉強会について

福祉職に就いて日が浅い方や、多職種から福祉職に就いた方を対象に自立支援協議会や千歳市の福祉サービスについて基本的なことを知ることができる勉強会を年4回開催している。第1回目の開催案内を各事業所ないでも周知してもらう。

(2) 次回開催について

8月22日(木)10時～場所未定。第三週木曜日は15日でお盆休暇の事業所もあるため1週開催を遅らせている。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 こども部会 レッツスマイル夏企画 報告	
日 時	令和元年 8 月 10 日 (土) 8 : 30 ~ 15 : 00
場 所	目的地 : 小樽市総合博物館 集合・解散 : 千歳市総合福祉センター 移動 : 福祉バス利用
参 加 者	参加者 : 16 名 (内家族 2 名) スタッフ : 7 名 ボランティア : 15 名 (千歳高校 2 名、文教大学 13 名) 計 3 8 名
要 旨	<p>1 . 対象</p> <p>千歳市在住の障がいのある就学 1 年前の幼児、小学生、中学生、高校生、その家族でサポート情報の提供の同意をしていただけの方 (家族の参加は任意、本人のみの参加可能)</p> <p>2 . 内容</p> <p>千歳市総合福祉センターから福祉バスを利用し、小樽市総合博物館で鉄道展示室や屋外車両展示を見学、蒸気機関車アイアンホース号に乗り、プラネタリウム鑑賞等をして過ごした。昼食は、お座敷列車を貸し切り各自自由に食べた。</p> <p>8 : 00 スタッフ・ボランティア集合</p> <p>8 : 30 参加者千歳市総合福祉センター集合 (9 : 00 出発)</p> <p>10 : 30 小樽市総合博物館到着</p> <p>12 : 00 昼食 (お座敷列車を借りている)</p> <p>13 : 30 小樽市総合博物館出発</p> <p>15 : 00 千歳市総合福祉センター到着 随時解散</p> <p>3 . 経費</p> <p>(1) 収入</p> <p>参加費 300 円 × 16 名 = 4,800 円</p> <p>(2) 支出</p> <p>参加者及びボランティア弁当代</p> <p>施設入館料</p> <p>傷害保険</p> <p>高速代料金 など</p>

会議内容	<p>1. 実施概要</p> <p>目的地の小樽市総合博物館では、鉄道展示室や屋外車両展示の見学、蒸気機関車アイアンホース号の乗車体験やドームシアターでプラネタリウムの鑑賞などを行い、担当ボランティアや家族・スタッフと楽しく過ごした。施設の範囲が広く参加者それぞれの興味に合わせて行動する場面もあれば、みんなで集まって楽しむことが出来た。</p> <p>昼食はお座敷列車を貸し切り、ゆとりのある時間設定の中で食事をとった。</p> <p>天候は暑さや雨の予報を心配されたが、雨に当たることもほとんどなかった。スケジュールに関しても滞りなく進み、大きなトラブルや怪我也無く、無事終了した。</p> <p>2. スタッフ、ボランティア感想</p> <p>(1) 運営や企画、参加されての感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢層も幅広く、たくさんの子どもの接し方を学べた。 ・初めてのボランティアで緊張していたが、楽しく活動できた。 ・担当した子とたくさん話して仲良くなれた。 ・年上の人と話す良い機会になった。 ・一人ひとりがペアで付けたので、子どもとの関わりがしっかりと出来て良かった。 ・子どもとの距離が近く、とても良い経験になった。 ・トイレ休憩の際、男の子のトイレに時間がかかってしまっていた為、トイレに付く人をつけると良いのではないだろうか。 ・子どもたちで好きなように座ることが出来て楽しそうだった。 ・お弁当を持参している子は、用意してもらっているお弁当を見て羨ましそうだった。 ・参加者が比較的楽しめる場所だったと思う。 ・担当の子どもの年齢を書いてもらえると、何歳くらいの子と一緒に行動するのかが事前にわかり、心の準備ができるのでありがたいと感じた。 ・保護者の方からの情報があることで、安心して活動できた。 ・タイムスケジュール通り、無事怪我也無く見学でき良かった。 ・時間も長すぎず短すぎずちょうど良かったと思う。 <p>(2) 今後の企画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もりもと工場見学 ・雪遊び ・物づくりなど ・一緒に運動会(スポーツ)、体育館を使ったレク ・アスレチックなど ・ボウリング、埋蔵文化財センターで勾玉作り ・子どもについて知れるような活動
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・動物が好きな子が多かったので動物園もいいなと思った。 ・博物館・水族館や、夏なら水遊びも楽しそうだなと思った。 ・青少年科学館は色々な体験的な活動が出来るのではないかなと思う。 <p>(3) 企画委員として参加可能かどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加しても良い(興味がある)...12名 ・むずかしい...2名 ・未定...1名 <p>3. 参加者アンケート集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日程よく遊んで楽しく過ごせたのでよかった。 ・サポーターさんがついてくれるので安心がある。 ・アイアンホース号がとても楽しかったようでした。 ・冬も参加したいと話している。
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第3回 こども部会 報告	
日 時	令和元年 8月22日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 310-2号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、こども療育課(吉田主査)、学校教育課(吉見係長)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.レッツスマイル夏企画反省・冬企画について 2.座談会について(進捗確認) 3.情報提供(課題共有) 4.その他
会 議 内 容	<p>1.レッツスマイル夏企画反省・冬企画について</p> <p>(1)夏企画反省</p> <p>8月10日(土)に開催したレッツスマイル夏企画について、アンケートを基に振り返った。参加者からはアイアンホース号乗車やプラネタリウムなど、1日楽しく過ごすことが出来たと感想があった。また、学生ボランティアからは、一人ひとりペアで担当したことで子どもとしっかりと関わって良かったという点や自分の将来に向けての良い経験となったという感想があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ休憩時(ICや施設内)に対応するスタッフの人員配置には調整が必要。 ・施設の概要について、外の展示などあらかじめアナウンスしておいた方がより楽しめて良かったのではないか。 ・見学する場所が色々あり、時間を余すことなく楽しめていた。 ・ボランティアのアンケートから担当参加者に会う前に年齢等がわかれば心の準備が出来るとの意見があり、今後の参考としたい。 <p>(2)冬企画について</p> <p>夏企画のアンケートで次回の企画についての意見をいただき、その内容を中心に話し合っている。埋蔵文化センターで勾玉作りや外での雪遊び、ボウリング、ものづくり体験等の意見があり今後検討し、次回10月の部会で目的地を決定する。</p> <p>2.座談会について</p> <p>発達が気になる子どもの保護者を対象に、日頃の悩みや困りごとについてテーマごとに分かれて情報交換をしていく。日程は会場確保の都合で9月26日(木)、千歳市総合福祉センター402号室10時~12時で決定している。</p> <p>テーマについて、就学に向けて、福祉サービスについて(利用基準、サービスの違いなど)、就労に向けて(卒業後の支援など)の3つ設定する。</p> <p>周知の方法について、市内小中学校生徒への配布、関係事業所、ちゃんと等を予定</p>

し、各所に協力の依頼をする。学校、事業所で情報交換の場を求めている方、必要と思われる方へ声かけも行っていただくことをお願いしている。

4.情報提供(課題共有)

(1)事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水応相談。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火金土日空き無。

移動支援：水金土空き有。月火日応相談。木空き無。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス千歳桜木 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ブン・ブン・ブン・ハウス 児童発達：月火水木金空き有。

放課後デイ：火水木金土空き有。

(2)課題共有

最近のケースとして登校困難な子どもに関する相談があり、学校へ行けるようになるきっかけ作りやそのような状態にならないための事業所の活用や対応について意見交換を行った。

- ・事業所での学校へ行けなくなりそうな子どもに対する支援では、学校での出来事を言ってもらえる関係性を作り、保護者と情報共有しながら対応について考えている。
- ・不登校の原因と考えられている学習不振は二次的なものであり、学習面の支援だけでは無く、子ども自身の課題に対する支援を考えることが重要なのではないか。
- ・長期休暇の宿題が終わらないことが学校へ行きたくない理由になる。事業所の取り組みとして宿題がんばりデーを設定している。
- ・長期休暇の宿題のやり残しの原因は家庭環境にもあるが、保護者が学習面まで面倒を見られていない場合がある。
- ・集団で学習をする場を設けるだけでなく、アセスメントを通して弱い部分を見極め個々に合わせた学習支援を行っていくことも大切なのではないか。
- ・学習不振や学校へ行けなくなりそうな子どもに対して地域として支援力を高めていけるよう、各事業所の取り組みや成功体験の情報交換を行いながら、今後の部会の取り組みを考えていくこととし、方法については今後検討する。

5.その他

(1)全体会の報告

手話言語条例を推進していく部会が新たにできた。

(2)次回開催について

10月17日(木)10時～場所未定。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 こども部会情報部交換会（座談会）報告	
日 時	令和元年9月26日(木) 10:00~12:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	参加者10名 こども部会構成メンバー7名 合 計 17名
要 旨	<p>1. テーマについて</p> <p>2. 情報交換会</p> <p>3. アンケート集計結果</p>
会議内容	<p>1. テーマについて</p> <p>テーマ1：就学に向けて</p> <p>テーマ2：福祉サービスについて</p> <p>テーマ3：就労に向けて</p> <p>テーマ1が4名、テーマ2が3名、テーマ3が3名希望の申し込みがあった。各グループに2～3名ずつこども部会構成メンバーが入り情報交換を行った。</p> <p>2. 情報交換会</p> <p>就学に向けてのグループでは主に就学の話、保護者の子育ての悩み、支援学級と通常学級をどのように選んでいったらいいか等の話があった。就学後の話や支援学級の子どもの生活について具体的な話をもとに情報交換を行った。福祉サービスについてのグループでは、利用できる福祉サービスのほか、民間のサービスに関して実体験に基づいた話もあった。また、不登校児について家庭で行っている対応の仕方等の意見交換も行われた。就労に向けてのグループでは、高等支援学校やその後の将来について、保護者が聞きたい内容を聞けるような時間となった。</p> <p>3. アンケート集計結果</p> <p>(1)利用先（学校）の案内、利用先（事業所）、通園センター、友人・知人からの案内で今回の情報交換会を知った。</p> <p>(2)定期的に情報交換ができる場に参加している方もいたが、はじめて参加した方もいた。</p> <p>(3)参加者のほとんどが役立つ機会になった、今後も参加したいと回答していた。</p> <p>(4)聞いてみたい、興味のあるテーマとして以下の回答があった。</p> <p>千歳市には無いが、恵庭市にある特認校などのことを聞きたい。</p> <p>大人数ではパニックになる子どもを少数制の学校に通わせた事例など発達障害の関わり方、アドバイス等</p>

	<p>千歳市で使える子どものサービス 就労について 同じくらいの月齢の子をもつ保護者の話 子どもが言うことを聞かない時の親の対応、他の保護者はどうしているか。</p> <p>障がいを持つ子どもたちの習い事について</p> <p>(5)都合の良い開催曜日・時間帯(複数回答) 平日午前、平日午後、平日夜、週末午前、週末午後</p> <p>(6)要望、感想等として次の回答があった。</p> <p>障がいのある子たちの保護者と話す機会があまりなく、貴重な時間となった。今は就学前の子どもを見ているが、10年後、20年後新たに出てくる問題などを具体的に教えてもらった。これからのことを踏まえて目標設定、将来のビジョンが見えてきた。</p> <p>話の共有というか、関わる親たちの交流の場所があったらいいかなと思う。日々の生活で不安があるので元気になれる事のような気がする。</p> <p>色々なお話を聞けて良かった。他のグループのお話も聞きたかった。</p> <p>たくさんの情報を聞けて良かった。</p> <p>大変参考になった。疑問だったことが解決した。</p> <p>療育に通っている保護者の集まりを増やしてほしい。情報交換や悩みを共有し</p> <p>ていけたらいいなと思う。</p> <p>札幌では個別指導のプール教室や、障がい者限定のプール教室、習い事も障がい者手帳がある人は割引ありと案内に記載され選択肢がある。千歳でももっと気軽に体を動かせる機会が定期的に得られる制度を作ってほしい。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第4回 こども部会 報告	
日 時	令和元年 10月17日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 307号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、第二ちとせくらぶ(白井氏)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学校(古木氏)、こども療育課(吉田主査(副部会長))、学校教育課(石川氏)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.レッツスマイル冬企画について 2.座談会(情報交換会)反省 3.合同説明会について 4.情報提供(課題共有) 5.その他
会議内容	<p>1.レッツスマイル冬企画について</p> <p>日程は1月11日(土)を予定。福祉バス抽選終了後に空き状況を確認し、日程を決める。企画内容としてはチューブそり等外で雪遊びを楽しむことが出来る国営滝野すずらん丘陵公園にある滝野スノードームに決定している。悪天候時は室内の虹の巣ドームで身体を動かして遊ぶ。</p> <p>2.座談会(情報交換会)反省</p> <p>9月26日(木)に行った座談会(情報交換会)についてのアンケート結果をもとに振り返りを行う。当日の参加者は10名で、たくさんの情報を聞いて参考になった、日々の生活で不安があるので今後も親たちの交流の場所があったら良いと思うという意見があった。</p> <p>当日参加した部会メンバーからの感想・反省点として次のことが挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループであり、参加者が聞きたいことを聞ける雰囲気良かった。 ・通園センターに通っている子どもの保護者は定期的に学習会等に参加し繋がりがあがるが、通っていない保護者は悩みを共有するような場がなかなかない現状であることがわかった。 ・通園センターに繋がっていないけれど、自分の子育てに心配がある保護者が悩みを共有できる場が少ないので、市で行っている子育てスキルアップ講座やカウンセリングも活用していければ良いのではと思った。 ・グループ3名中2名のお子さんが不登校という話があり、子どもの状況を受け止めてそれぞれに合わせたペースで将来を考えているというような話があった。また不登校の原因として昨年の震災後に学校へ行けなくなったという部分が共通し、震

災の影響が大きいことが分かった。

・子どもが不登校となっている保護者は友人の紹介で会を知り参加してくれていたようで、多くの生徒に案内を配布したことで保護者同士の口コミでも会について周知されているように感じた。

・なかなか保護者同士で話す機会が少ないという話を保護者から聞き、良い機会になったのではないかと思う。

3. 合同説明会について

はたらく部会共催の合同説明会が11月30日(土)千歳市総合福祉センター4階で開催される。402号室で就労支援事業所、403号室で児童の事業所で個別相談ブースを設けて事業所ごと個別の対応をする。チラシが完成したら各事業所で配布予定となる。事業所の紹介が出来るようなデータやリーフレットの準備を行う。

4. 情報提供(課題共有)

(1) 事業所空き情報について

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火応相談。

移動支援：火水木金空き有。月土応相談。

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水応相談。火木金土日空き無。

ラブアリス千歳桜木 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス千歳桜木別館 児童発達：月水空き有。火木金応相談。

放課後デイ：月水空き有。火木金応相談。

ちとせくらぶ 児童発達：土日、祝日空き有。木応相談。

放課後デイ：土日、祝日空き有。木応相談。

第二ちとせくらぶ 児童発達：空き無。

放課後デイ：土日空き有。

みどり台 児童発達：月水空き有。

通園センター 児童発達、放課後デイ共に応相談。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

(2) 第二ちとせくらぶ

12月中旬から第二ちとせくらぶの2階で第三ちとせくらぶ開所予定。利用時間等はちとせくらぶ・第二ちとせくらぶと同じ。

(3) 通園センター

11月9日(土)16:00~18:20「千歳命名215年・開庁140年記念」第31回子どもの発達と障がい講演会が開催される。

	<p>(4)学校教育課 11月12日(火)10:00～12:00 花園コミュニティセンター 「地域啓発セミナー」(主催：こどばを育てる親の会北海道協議会、窓口：緑小学校 ことばの教室)</p> <p>(5)南幌養護学校 11月9日(土)に学校祭が開催される。9:30から小学部・中学部のステージ発表、 11:40から高等部が作業で作ったものの販売がある。</p> <p>(6)千歳高等支援学校 11月16日(土)に学校祭が開催される。各学年のステージ発表や模擬店、作業で作 った物の即売会がある。</p> <p>(7)千歳市北進小中学校 11月24日に学芸発表会が行われる。</p> <p>(8)課題共有 市内の学校では、通常学級に在籍する発達障がいのある子どもをどのように支援す るかが大きな課題となっている。診断を受けている児童生徒も年々増加しており、現 状についての意見交換をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道ではトライアングルプロジェクトとして家庭と教育と福祉の連携を推進して いる。千歳市としての対応方針は決まっていないが、今後学校と幼稚園・保育園と福 祉の連携の在り方を考えていきたい。 ・学校に行けない生徒が、きっかけとして児童デイの事業所に通いたいという話があ る。学校と連携を取りながらやっていくことが基本的な形であるため、まずは学校と 相談することになる。 ・イエローファイルを学校で保管していることが多く、情報が事業所に入っていない。 学校で保管になっている明確な理由はないが、重要な情報源であるため事業所とし ても保護者に見せてもらえるようお願いすることが度々ある。複数の事業所を利用し ている人も多く、イエローファイルを活用し情報を集めている。 ・福祉サービスを利用している子どもでイエローファイルがない場合もあるが、ファ イルのあるなしにかかわらず連携は必要であり、ひとつのツールとして活用して いく必要がある。また、イエローファイルがある子どもの保護者には、個別支援計画作成 時イエローファイルに入れて保管してもらうよう支援者から伝えていく必要がある。 <p>5.その他</p> <p>(1)次回開催について 12月19日(木)10時～開催予定。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第5回 こども部会 報告	
日 時	令和元年 12月20日(金) 10:00~11:30
場 所	千歳市社会福祉協議会 会議室1
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、障がい者支援事業所ゆうび(寺島氏)、ブンブンハウス(松田氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、児童デイサービスみどり台(浅野氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、千歳市北進小中学校(板垣氏)、学校教育課(吉見係長)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.レッツスマイル冬企画について 2.合同説明会について 3.勉強会(支援者向け学校見学会) 4.情報提供(課題共有) 5.その他
会 議 内 容	<p>1.レッツスマイル冬企画について</p> <p>1月11日(土)開催の進捗確認を行った。チラシの配布とボランティアの募集依頼は終了し、12月25日までが参加申込み期間となっている。</p> <p>今後は、12月24日に下見を行い、1月7日、8日10時からマッチング会議、最終確認会議を行う。会議終了後、参加者に最終案内を送付する。</p> <p>2.合同説明会について</p> <p>11月30日に開催された合同説明会についてアンケートをもとに振り返りを行った。</p> <p><来場者アンケート内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労、こどものほか、入所、生活介護、居宅、グループホーム等の情報発信として行っていくことも必要と感じた。 ・福祉センターは対象の方には来場しやすい環境に感じた。 ・こども部会の入ってすぐのスペースにも入りやすい工夫をすると良かったのでは。 ・午前中は両方とも賑わっていたが、こども部会の方はお昼を過ぎると人の流れが止まってしまったので、時間を10時~13時と短くしたらどうだろうか？ ・事業所間の情報交換も有意義だった。次回はより多くの来客を期待したい。 ・相談件数は2件だったが他事業所の方々と交流ができ良い時間を過ごすことができた。 ・保護者のニーズや困りごとなども聞いてよかった。 ・前回より参加者が増え、今度も説明会を続けていきたいと思った。 <p>来場者数 こども部会のみ 合計16件(日中一時・移動支援の相談が多かった)</p> <p><当日参加部会メンバー アンケート内容></p>

- ・会場の手狭感があった
- ・相談件数は少なかったが、他事業所との情報交換など今まで望んでいたことができ、療育の方向性について話ができて良かった
- ・他事業所との交流を通して行き詰っていたことについて話ができて、その後少し楽になったように感じ、とてもいい機会になったと思う。
- ・就労系の事業所もあるため、千歳市に限らず恵庭市に住んでいる生徒等配布する範囲を広げても良いかなと思った。
- ・相談内容としては、どのような療育・事業所の特色があるのかという、普段パンフレットで周知をしているようでわかりにくい部分について、直接困りごとの相談を受ける事が出来た。どのような特色の事業所かをお伝えしながら他の事業所の紹介もした。

3.勉強会(支援者向け学校見学会)

年度当初の計画通り、2月に支援者向けの学校見学会を開催する。北進小中学校・千歳高等支援学校・南幌高等養護学校に依頼し、日程は学校の都合を確認し調整する。詳細が決まり次第、最終的な案内は事務局で行う。

4.情報提供(課題共有)

ブンブンハウス...利用者から野球観戦に連れて行って欲しいと話があった。子ども部会を通して多くの子どもと一緒に野球観戦に連れて行きたいと思っている。また、日本ハムファイターズのコーディネーターから連絡があり、直接お会いして話を聞くことができた。

保護者・家族と一緒に野球観戦に行くことが難しい子どもが、他にもいるのではないかと相談したところ、まとまった人数であれば優先的にチケットを確保できるという話があった。ニーズがありスタッフ・ボランティアの調整ができれば実現できるのではないか思った。

(1)事業所空き情報について(部会開催日情報)

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ライフヘルプ 日中一時：月火水空き有。木応相談。

移動支援：月火金空き有。木土応相談。

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

放課後デイ：月水応相談

ラブアリス千歳桜木 児童発達：木応相談。

放課後等デイ：木応相談。

ラブアリス千歳桜木別館 児童発達：月～金応相談

放課後デイ：月～金応相談。

ちとせくらぶ 児童発達：土日空き有。

	<p>放課後デイ：土日空き有。 第二ちとせくらぶ 児童発達：土日応相談。 放課後デイ：土日応相談。 みどり台 児童発達、放課後デイ共に空き無。 千歳市こども通園センター 児童発達、放課後デイ共に応相談。</p> <p>(2)情報提供 学校教育課 1月10日(金)9:15~11:15 北ガス文化ホール中ホールにて「千歳市特別教育研修会」が実施される。二通諭名誉教授に「映画で学ぶ特別支援教育～発達障がいの豊かな世界と可能性～」をテーマにご講演いただく。</p> <p>(3)課題 ・事業所で抱えている困り事として、性に関する部分にいつも行き詰まるため講師を招いての勉強会が必要である。学齢期の子どもに対し性についてどのように話しているか等、支援学校や高等支援学校の先生に手法を教わることが出来ればいいとの意見がある。 ・情報交換会があった困り事、地域課題も含めて、次年度の部会の取り組む課題として検討していく事になる。</p> <p>(4)次回開催について 2月20日(木)10時～開催する。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 こども部会 レッツスマイル冬企画 報告	
日 時	令和2年1月11日(土) 8:30~15:00
場 所	目的地: 滝野丘陵すずらん公園スノーワールド 集合・解散: 千歳市総合福祉センター 移動: 福祉バス利用
参 加 者	参加者: 14名(うち家族4名) スタッフ: 7名 ボランティア: 6名(千歳北陽高校2名、文教大学4名) 計27名
要 旨	<p>1. 対象</p> <p>千歳市在住の障がいのある就学1年前の幼児、小学生、中学生、高校生、その家族でサポート情報の提供の同意をしていただけの方(家族の参加は任意、本人のみの参加可能)</p> <p>2. 内容</p> <p>千歳市総合福祉センターから福祉バスを利用し、滝野すずらん公園丘陵公園スノーワールドでチューブそりやちびっこそり滑り、ありの巣トンネルで謎解きクイズラリー、虹の巣ドームでネット遊びをして過ごした。</p> <p>8:00 スタッフ・ボランティア集合 8:30 参加者千歳市総合福祉センター集合(9:00 出発) 10:30 滝野すずらん公園丘陵公園スノーワールド到着 12:00 昼食 13:30 滝野すずらん公園丘陵公園スノーワールド出発 15:00 千歳市総合福祉センター到着 随時解散</p> <p>3. 経費</p> <p>(1) 収入 参加費 300円×14名 = 4,200円</p> <p>(2) 支出 参加者及びボランティア弁当代 傷害保険 など</p>
会議内容	<p>3. 実施概要</p> <p>目的地の滝野すずらん丘陵公園スノーワールドでは、チューブそりやプラスチックそり滑り、ありの巣トンネルで謎解きラリー、室内の虹の巣ドームでネット遊びなどを行い、担当ボランティアや家族・スタッフと楽しく過ごした。参加者にそれぞれ担当ボランティアが付くことによって、室内のネット遊びやゲレンデのそり滑りなど参加者の好みに合わせた時間を過ごすことができた。昼食は施設内の休憩スペースで食事をとった。</p>

今年は雪不足であり通常よりもそりゲレンデのコースは短くなっていたが、限られたスペースで一日楽しく過ごした。スケジュールに関しても滞りなく進み、大きなトラブルや怪我も無く、無事終了した。

4. スタッフ、ボランティア感想

(1) 運営や企画、参加しての感想

- ・とても楽しかった。
- ・子ども一人一人に大人が付くことにより、その子の行きたいところに連れていくことが出来るのがとても良いなと思った。
- ・お小遣いで何か買うことを楽しそうにしていたので、お店で何か買って良いということ許しているのが良いなと思った。
- ・名前のシールがはがれてしまったので、養生テープだといいいのかなと思った。
- ・チューブそりはやったことがなかったので、スピードが速くとても楽しかった。子どもたちも楽しんでた。お母さんも参加していたので、お母さんともたくさんお話ができて楽しく過ごせた。
- ・子どもたちもボランティアも楽しく参加できた。初めての参加で少し心配はあったが、運営の方にサポートしてもらい安心して活動することができた。
- ・子どもも自分もとても楽しめた。夏とはまた違って体を思いっきり動かせたと思う。このボランティアに参加して良かった。
- ・チューブ滑りは本人だけでなくボランティア側も楽しめて良かった。
- ・子どもたちもチューブそりなどで楽しむことができ良い一日を過ごすことができた。
- ・雪遊びも良かったし、天気も良くて最高だった。

(2) 今後の企画案について

- ・水族館
- ・もりもと工場見学
- ・福祉センターでレクリエーション など

(3) 企画委員として参加可能かどうか

- ・参加しても良い(興味がある)... 6名
- ・むずかしい... 2名

5. 参加者アンケート集計

- ・とても良かったと思う。子どももとても楽しみにしていたし、冬ならではの内容で、とても感謝している。

	<ul style="list-style-type: none">・滝野すずらん公園は気になっていたがなかなか自分で行けず、この企画で連れて行ってもらえて冬の雪遊びも出来て本当に嬉しかった。・今年は雪が少なく外で雪遊びが出来なかったので、とても楽しくチューブそりができた。
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第6回 こども部会 報告	
日 時	令和2年2月20日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 401号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、ブンブン ブンハウス(松田氏)、ちとせ療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、 千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、北海道千歳高等支援 学校(古木氏)、学校教育課(石川氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センタ ー長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.レッツスマイル冬企画(反省) 2.勉強会(支援者向け勉強会) 3.年度まとめ 4.情報提供(課題共有) 5.その他
会 議 内 容	<p>1.レッツスマイル冬企画(反省)</p> <p>1月11日(土)開催したレッツスマイル冬企画についてアンケートを基に振り返りを行っている。当日はチューブそりやちびっこそり滑り、ありの巣トンネルで謎解きクイズラリー、虹の巣ドームでネット遊びをして過ごしている。参加者からは、例年に比べ雪が少なく中々外で雪遊びが出来ていなかったが、このような企画で冬の雪遊びが出来て嬉しかったという感想があった。学生ボランティアからも、思いっきり身体を動かし楽しく参加することが出来たという感想があった。今後は体調不良等の緊急時の対応をどうしていくか、マンツーマン体制や学生ボランティア確保について課題として挙がっている。</p> <p>2.勉強会(支援者向け勉強会)</p> <p>2月12日(水)に開催した南幌高等養護学校見学会について、当日参加した部会メンバーから感想を聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所を利用している児童が学校でどのような過ごし方をしているか知れる良い機会となった。 ・小中高で取り組んでいる内容の違いがあり、それぞれの特徴を見る事が出来て良かった。 ・授業中の見学の為、担任との情報共有は出来なかったが、知っている子どもの学校での様子を見る事が出来て良かった。 ・学校と事業所で本人の様子が違うこともあり、普段関わっている時とは違う本人の一面を見させてもらい良かった。視覚的な支援を多くされていて、同じ支援を事業所でも出来るように取り組む為の参考になった。

3月12日(木)10:00~11:30に千歳高等支援学校見学会を予定している。現地集合解散予定。後日事務局から出欠の案内をする。

3.年度まとめ

(1)1年間全体を通して

- ・事業所同士の交流がもっとあっても良いのでは。それぞれの事業所によって特色がありお互いに参考になることもあるので、情報交換が出来れば良いと思った。
- ・情報を集めるのに事業所空き情報がありがたかった。
- ・恵庭のこども部会は事業所で開催している。事業所の都合もあるが開催場所として参考にできるのでは。
- ・事業所を利用している子どもが他の事業所も利用しているがその時の様子がわからないことも多いため、情報交換出来るよう来年度はもっと部会に参加したい。
- ・参加できない行事もあったが、座談会では保護者の生の声を聴くことが出来て良かった。

4.情報提供(課題共有)

(1)事業所空き情報について

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ライフヘルプ 日中一時：月空き有。火水木応相談。

移動支援：火土応相談。

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水応相談。

ラブアリス千歳桜木 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス千歳桜木別館 児童発達：木応相談。

放課後デイ：木応相談。

ブンブンハウス 児童発達：月火水木金空き有。

放課後デイ：水木金土空き有。月火応相談。

第二ちとせくらぶ 放課後デイ：日応相談。

千歳市こども通園センター 児童発達、放課後デイ共に応相談。

フェアリー 児童発達、放課後デイ共に空き無。

(2)情報提供

南幌高等養護学校...卒業式高等部 3月6日(金)

小中学部 3月13日(金)

千歳高等支援学校...卒業式 3月7日(土)

	<p>即売会 3月10日(火)10:00~</p> <p>ちとせ療育教室はる...新しい事業所を申請中で認可が下りれば4月から開始予定。 サポートセンターエブリ...居宅介護、行動援護、移動支援、日中一時が3月31日で 休止となる。</p> <p>5.その他</p> <p>次回開催について</p> <p>次年度1回目の開催を4月3週目の木曜日の予定としている。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第1回 はたらく部会 報告	
日 時	令和元年5月24日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	25名 千歳地域生活支援センター(奥貫)、就労移行支援事業所ゆうび(蔵田)、エコファクトリー(結城)、株式会社ミエト(今井・鳴海)、株式会社ピアハーブ(猿山)、株式会社ひまわりの会(稲船)、株式会社帆の風(藤岡)、ウィンドバレー(千葉)、千歳物流センター(佐々木)、サポートセンターユリーカ(芦田)、青葉の杜、(田本)、スリーピース(仁木)、晴レルモキッチン(米澤)、Om-Net(牧野)、千歳こぶしクリニック(松田)、千歳病院デイケアひかり(橋場)、石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター Chip(横山・中村・吉田)、就労推進室やませみ(野田・下川部)
要 旨	<p>1. 報告事項</p> <p>(1)自己紹介</p> <p>(2)前年度実施報告及び今年度実施計画について</p> <p>(3)視察研修について</p> <p>(4)合同説明会について</p> <p>2. その他連絡事項</p>
内 容	<p>1. 報告事項</p> <p>(1)自己紹介 今年度第1回の部会ということで自己紹介を行った。</p> <p>(2)前年度実施報告及び今年度実施計画について はたらく部会の概要について確認し、前年度の実施した内容について報告をした。今年度実施計画については、就労推進室やませみが前年度の実施した内容をふまえて計画案を提示し協議を行った。</p> <p>(3)視察研修について 多くの意見を抽出し反映していくため、事前にアンケートを配布した。今後のスケジュールや内容については、次回協議する。</p> <p>(4)合同説明会について 視察研修同様にアンケートを配布した。今後のスケジュールや内容については、次回以降協議する。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千歳物流センター 佐々木：「みんなをつなげる会」入会案内周知 ・エコファクトリー 結城：スタートダッシュ外×プロジェクト開催のお知らせ ・ウィンドバレー 千葉：取扱い商品の案内配布等
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第2回 はたらく部会 報告	
日 時	令和元年 7月 19日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	22名 千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター Chip(中村・吉田)、千歳地域生活支援センター(奥貫・今野)、就労移行支援事業所ゆうび(藏田)、【複合型】いずみワーカーセンター(玉井)、【A型事業所】ピアルプ(猿山)、株式会社帆の風(藤岡)、就労支援センター Om-Net(毛利)、【B型事業所】ワステップ(眞鍋)、千歳物流センター(佐々木)、サークルイト(青木)、自立訓練施設蓮げ荘(森本)、青葉の杜、(田本)、晴れキッチン(米澤)【ケア】千歳病院ケアひかり(橋場)、桂病院ケアぼら(葛西)【他市】石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)【事務局】就労推進室やませみ(野田・下川部)
要 旨	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 各事業所から (2) 視察研修について (3) 合同説明会について (4) 地域課題について(課題抽出シートの検討)</p> <p>2. その他連絡事項</p>
内 容	<p>1. 報告事項</p> <p>(2) 視察研修について</p> <p>はたらく部会員にあらかじめ、意見・アイデア・訪問してみたい事業所等のアンケート調査を行った。それをふまえて視察研修先や日程について協議した。</p> <p>アンケートに多く出ていた意見としては「支援時間の関係上、全日参加をするのは難しいので半日がいい」「場所を絞った形」「各事業所でも反映できるような形」等があり、市内開催かつ短時間で実用性のある視察研修が求められている。</p> <p>その結果ふまえ、事務局やませみがスケジュール・内容等を検討することとなる。</p> <p>(3) 合同説明会について</p> <p>全体としては、例年通りの考え方であるが、来場者数が減少していることから、集客に対しての工夫が必要であることが述べられた。本協議では広告の工夫について、意見が出されたところである。</p> <p>前年度のチラシの内容について協議したところ、パッと見て理解できるような視覚的な表現にしてはどうか、例えば Q&A 形式で「しばらくお仕事から遠のいてしまったが、仕事を始めるためにどうしたらいいだろう?」に対して「就労に関してそうだなできるところがあるんだって!」のようなチラシにて困り感を解消できそうだと思うような形式にしていくことが求められると意見が出た。</p> <p>会場について...例年北が文化ホールを利用していたが、予約を取れず、福祉センター、中心街コミュニティセンター等へ変更がある。日程について...11月30日(土)・12月7日(土)のいずれかに設定予定である。対象の表現について...(福祉サービスに関心のある方)(福祉事業所)</p> <p>(4) 地域課題について(課題抽出シートの検討) 第3回はたらく部会にもちこし。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回はたらく部会の曜日設定を金曜日と伝えたが今後、場所確保の関係上、金曜日の限りではない旨を連絡した。 ・晴れキッチン:福祉器具のPR ・Chip:千歳市福祉協議会開催の社会福祉大会についてのPR
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志 穂

令和元年度はたらく部会 視察研修報告	
日 時	令和元年9月5日(木) 9:50~14:40
参加者	20名(参加区分内訳 :10名 :3名 :1名 :6名) :Om-Net(牧野)、(株)ピアハープ(山下・野本)、青葉の杜(森川・鳥越・毛内)、サポートセンターユリーカ(芦田)、わくわくわくファーム(秋本・高瀬)、のいける(山口) :エコファクトリー(結城)、千歳物流センター(佐々木)、サークルエイト(三宅) :千歳病院デイケア(橋場) :晴レルモキッチン(川口・米澤)、メビウス(五十嵐)、千歳物流センター(木暮)、サークルエイト(木村)、のいける(里見)
視 察 先	(1)就労継続支援A・B事業所 株式会社ミナモト (2)就労継続支援B事業所 晴レルモキッチン (3)就労継続支援A・B事業所 エコファクトリー・結び工房
内 容	以前、部会において「日常支援がある中で日程調整が大変。」また「千歳市内の事業所へは行けそうで行けない。」という声があったため、今年度は、市内の事業所を視察することとし、 :全日程、 :午前のみ(昼食あり)、 :午前のみ(昼食なし)、 :午後のみ の4つの区分の中から参加しやすい時間を選べるようにした。 (1)株式会社ミナモト 支援員の杉山氏とともに本事業所の入所施設・厨房を実際にまわりながら、利用者が床掃除を行っているところや厨房で食事の準備をしているところを視察した。その後、施設長今井氏から利用手続きや現在通っている利用者の様子などの話があった。 (2)晴レルモキッチン 東雲会館にて晴レルモキッチンで作ったからあげやおにぎり、豚汁をいただきながら晴レルモキッチンの支援員福田氏から事業所の説明を受けた。説明の中では、事業所の理念、活動目的、対象者、現在の利用状況、職員体制、一日の流れ、作業内容などの話があった。 (3)エコファクトリー・結び工房 株式会社119 インターナショナルが運営する結び工房とエコファクトリーへ行き、結び工房では、お店で提供されているコーヒーをいただきながらサービス管理責任者の結城氏からお店の説明を聞き、販売している商品の紹介を受け、実際に利用者がニンジンの皮むきをしているところを視察した。 エコファクトリーでは、利用者がパソコンを使って作業しているところや作業室で工具を使って作業しているところを視察した。 (4)アンケートについて アンケートでは、「他の事業所や企業を知る重要な機会なので是非実施してほしい。」との声があがっているほか、「他に飲食の作業を行っている事業所を視察できたらと思う、また、販売する利用者の様子を見たい。」や「視察先の事業所からすると事前に見聞きたいポイントが事前に分かっていると受け入れやすいのではないか。」などの意見があったため、こうした意見を取り入れながら来年度以降も継続して実施していきたい。
作 成 者	就労推進室やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第3回はたらく部会 報告	
日 時	令和元年9月6(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	26名 障がい者総合支援センターChip(中村・吉田)、千歳地域生活支援センター(今野)、いずみワークセンター(玉井)、エコファクトリー(結城)、ピアハープ(山下)、帆の風(藤岡)、ウィンドバレー(千葉)、千歳物流センター(佐々木)、Om-Net(牧野)、サポートセンターユリーカ(芦田)、オルポノ(有田・川波)、晴レルモキッチン(米澤)、わくわくわくファーム(秋本)、蓮げ荘(田本)、千歳病院デイケアひかり(橋場)、千歳桂病院デイケアポプラ(葛西)、千歳高等支援学校(斎藤・館山)、石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)、障がい者支援課(石黒)、就労推進室やませみ(野田・加藤・下川部)
要 旨	<p>1. 報告事項</p> <p>(1)視察研修について (2)合同説明会について (3)地域課題について</p> <p>2. その他連絡事項</p>
内 容	<p>1. 報告事項</p> <p>(1)視察研修について</p> <p>「ご近所さんの支援を見に行こう!」とのコンセプトのもと実施した。</p> <p>以前、部会において「日常支援がある中で日程調整が大変。」また「千歳市内の事業所へは行けそうで行けない。」という声があったため、今年度は、市内の事業所を視察することとし、全日程・午前のみ(昼食あり)・午前のみ(昼食なし)・午後のみ(昼食なし)の4つの区分の中から参加しやすい時間を選べるようにした。</p> <p>参加人数は20名であり、視察先は 株式会社ミナモト、 合同会社ハレルモ 晴レルモキッチン、 株式会社119 インターナショナル(結び工房・エコファクトリー)の3か所であった。</p> <p>アンケート結果は第4回はたらく部会で報告する。</p> <p>(2)合同説明会について</p> <p>日時は11月30日(土)、場所は千歳市総合福祉センター4階402号室及び403号室とし、ポスターの内容(案)、諸設備の調整等について話し合った。</p> <p>また、昨年度同様こども部会と合同で開催する。</p> <p>(3)地域課題について</p> <p>事前に各事業所からいただいた事例の1つについて検討した。</p> <p>障がい種別は発達障がい、利用者本人は、自分なりに効率良く作業に取り組もうとするため対人面でトラブルとなることがある。</p> <p>また、本人の意に反することがあると物にあたり、その場から出ていくなど突発的な行動がある。</p> <p>部会参加者からは、「第三者機関との連携の重要性」、「家族を巻き込んだ支援の必要性」、「個人の障がい特性に対する理解が必要である」などの意見が挙げられた。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>のいけるから「発達障がいの特性とその可能性」と「テレワーク」に関する勉強会について案内があった。</p> <p>Om-Net から年賀状印刷・オリジナルカレンダーの販売案内があった。</p> <p>障がい者支援課から「恵庭市農福連携収穫体験会」について報告があった。</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第4回 はたらく部会 報告	
日 時	令和元年 11月15日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	33名 千歳市役所障がい者支援課(石黒)障がい者総合支援センターChip(横山・新村)千歳地域生活支援センター(今野)ハローワーク千歳(青山)いずみワークセンター(玉井)就労移行支援事業所ゆうび(藏田)株式会社119インターナショナル(結城)株式会社メビウス(柳沢)ピアハープ(山下)株式会社ひまわりの会(稲船)株式会社帆の風(藤岡)株式会社ウィンドバレー(千葉)株式会社ドン・リースアンドレンタル(佐々木・木暮)就労支援センターOm-Net(牧野)マルハチ急行株式会社福祉事業部サークルエイト(青木)ワンステップ(真鍋)オルポノ(有田)青葉の杜(森本)スリーピース(青能)自立訓練施設蓮げ荘(田本)晴レルモキッチン(福田)千歳わくわくわくファーム(秋本)千歳病院デイケアひかり(澁谷)桂病院デイケアぼぶら(葛西)千歳こぶしくリニック(松田)石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(菅原・諏訪)就労推進室やませみ(野田・加藤・下川部)
要 旨	<p>1. 協議事項</p> <p>(1) 視察研修アンケート結果について</p> <p>(2) 令和元年度福祉サービス事業所合同説明会について</p> <p>タイムスケジュールの確認</p> <p>レイアウト図の確認</p> <p>当日配布書類等について</p> <p>その他</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>ハローワーク千歳(斎藤)おしごとサポーターのご案内</p>
内 容	<p>1. 協議事項</p> <p>(1) 第3回はたらく部会未報告だったアンケート結果を報告した。</p> <p>(2) 令和元年11月30日(土)千歳市総合福祉センター4階402・403にて開催する合同説明会実施について最終確認を行った。</p> <p>タイムスケジュールの確認開始</p> <p>10時・終了15時であるが、9時から会場準備が開始し、9時45分から事務連絡等があることや説明会終了は15時とあるが、最後の相談者が終わっていない場合は、その相談案件が終わるまで待機等の留意点を確認した。なお、こども部会(403号室)でシートを張るなどの会場設営等の手伝いが必要であることが挙げられ、確認した。</p> <p>レイアウト図の確認</p> <p>物販を行うところは長テーブル2本。行わないところは1本。また、椅子は4脚あたる。限られたスペースを協力し合いながら、臨機応変に説明する場として活用していただくことをお願いしている。11月30日(金)当日午前中は詩吟教室、午後からは視覚障がい者協会のサウンドボールテニスが行われ、耳を澄ませてボールの音を聞く協議の特徴から午後から概ね騒音に気を付けること・エレベーターから401号室までの導線確保を促した。スペースの都合上、収まりきらない点があり、Chip・医療(桂病院・千歳病院・こぶしくリニック)が403号室へ移動になっていることを周知した。403号室のレイアウトについてChip横山氏より説明があり、中央に休憩スペースを配置し、それを囲むように13テーブル置く予定であることを確認した。お子さんの発達を心配されている保護者の皆さん・お子さんがご来場され会場にて迷われている</p>

	<p>場合は、403号室に促してほしいとのことを確認した。また、児童発達デイ・放課後デイにご興味・ご関心のある方を促してほしいとのことで、確認した。当日配布書類等について</p> <p>当日配布資料として・リーフレット、・事業所リスト、・物品販売リスト・来場者用アンケートがあることを周知した。（物品販売について軽減税率の件はどうか？という話がでたが、各事業所での判断ではないでしょうか？というところに落ち着いた。）</p> <p>その他</p> <p>物品販売を行うにあたり出たごみは各自持ち帰ることを確認した。休憩スペース横ゴミ箱は、やませみが準備し、持ち帰ることを確認している。また、原状復帰にさせていただきようをお願いした。パネルを使用する事業所は画びょうもしくはメンディングテープを各自準備してもらうことを確認した。</p> <p><事務局から提案></p> <p>今後もこども部会、はたらく部会での合同共催を考えるとある程度スペースが必要となり、北ガス文化ホールが適していると思われる。北ガス文化ホールを確実におさえるためには1年前の予約が必要となる。したがって、11月最終土曜日に日程を定めてはどうか。また、日付を定めることで運営者側・参加者側双方スケジュールが立てやすく、皆さんにとっての利点があるのではないのでしょうか？と提案した。</p> <p>千歳地域の幼稚園・保育園・認定こども園等発表会時期と重なると、駐車場が満車で停められないのではないだろうかとの懸念事案が挙がるも、周辺地域のご協力や公共交通機関での来場を促すことで可能ではないだろうかというところで落ち着いている。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>ハローワーク千歳 斎藤氏よりおしごとサポーターのご案内の情報提供がある。</p>
<p>作成者</p>	<p>就労推進室 やませみ 下川部 志穂</p>

令和元年度 千歳市障がい福祉就労事業所合同説明会 報告	
日 時	令和元年 11 月 30 日(土) 10:00~15:00
場 所	総合福祉センター 4 階(402 号室、403 号室、エレベーターホール)
参 加 者	<p>はたらく部会 69 名</p> <p>千歳市障がい者地域自立支援協議会(荒会長)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長、石黒)、千歳地域生活支援センター(今野、福澤)、千歳職業安定所(青山、斎藤ほか 1 名)、いずみワークセンター(玉井)、就労支援事業所ゆうび(山崎、藏田、横田、実習生)、(株)119 インターナショナル(結城、平本、石川)、(株)ミナモト(今井、成美)、蓮げ荘(大山、相澤、田本)、(株)メビウス(柳沢)、(株)ワークセンターピアハープ(松浦、山下、宮下ほか 1 名)、(株)ひまわりの会(稲船、上田、村田、永井)、(株)帆の風(藤岡、高橋、阿部)、(株)ウィンドバレー(千葉、岩崎、八木、今井、山本、小島、工藤)、マルハチ急行(株)福祉事業部サークルエイト(青木、三宅)、サポートセンターユリーカ(芦田、鎌田、佐々木)、青葉の杜(森川、鳥越、森本)、スリーピース(青能)、晴レルモキッチン(米澤、福田)、Om - N e t (牧野、毛利)、千歳わくわくわくファーム(佐々木、秋本、高瀬)、千歳こぶしくリニック(松田)、デイケアひかり・リワークデイケア(橋場・菊池)、千歳桂病院(葛西)、(株)ドン・アンドリースレンタル千歳物流センター(佐々木、木暮、木村)、オープンカフェゆみな(畑中)、ワンステップ(真鍋)、就労推進室やませみ(下川部、野田、加藤)</p> <p>子ども部会 14 名(10 事業所)</p>
開 催 内 容	<p>1. 開場時間 10:00~15:00(準備開始は 9:00 から)</p> <p>2. 開催場所 千歳市総合福祉センター 4 階(402.403.エレベーターホール)</p> <p>3. 来場者数 合計 111 名(障がい当事者、家族等)</p> <p>4. 開催結果</p> <p>(1)来場者数について</p> <p>昨年度の来場者数が 56 名であったのに対し、今年度は 111 名となり大幅に増加した。要因としては、開催時期を早めたこと(12 月末 11 月末)、「ちゃんと」への記事掲載など事前周知の強化を図ったこと、開催時間を例年より 1 時間早めたことなどが考えられる。</p> <p>なお、物販の集客が多かったのに対し、説明利用の人数はやや少なかったように感じた。</p> <p>(2)こども部会との共催</p> <p>昨年同様こども部会と共同で開催した。</p> <p>同じフロアで開催したことで、児童関係事業所の見学に来た保護者が就労支援事業所の物販を利用してほかに、保護者から「こういう機関(就労支援)があることを知って安心した」や「作業内容を知れてよかった」などの声があった。</p> <p>(3)アンケート結果(来場者、事業所)について</p> <p>来場者アンケート</p> <p>次年度開催の参考とするため来場者に対しアンケート調査を行った。回答数は 32 件であった。概要としては、「開催時期について」は「今のままでよい」が 8 割近くを占めており、「開催時間について」は「ちょうどよい」が 8 割を超える結果となった。</p> <p>また、「説明会の感想について」は「とてもよかった(53%)」、「よかった(40%)」となっており、非常に高い評価が得られた。</p> <p>アンケート結果の詳細は別紙のとおり。</p> <p>事業所アンケート</p> <p>アンケートの形式は自由記入形式とし、良かった点、改善すべき点などの意見があった。意見等は別紙のとおり。</p> <p>5. その他</p> <p>開催結果については、令和 2 年 1 月 17 日(金)開催の第 4 回はたらく部会にて報告し、改善点</p>

などの協議を行いたい。

性別

	回答数	割合
男	9人	28.1%
女	23人	71.9%
計	32人	100.0%

住所

	回答数	割合
市内	24人	75.0%
市外	6人	18.8%
無回答	2人	6.2%
計	32人	100.0%

「市外」は恵庭から

参加の種別

	回答数	割合
障がい当事者	14人	43.8%
当事者家族	16人	50.0%
教育関係者	1人	3.1%
医療機関	0人	0.0%
その他	1人	3.1%
計	32人	100.0%

年代

	回答数	割合
10代	3人	9.4%
20代	3人	9.4%
30代	5人	15.6%
40代	17人	53.1%
50代	4人	12.5%
計	32人	100.0%

40代の参加が多く半数以上を占めている。

合同説明会を知った媒体(複数回答)

	回答数	割合
ポスター	7人	19.4%
チラシ	14人	38.9%
ちゃんと	7人	19.4%
その他	8人	22.3%
計	36人	100.0%

なお、年齢別には、10～20代の約7割が「ちゃんと広告」で開催を知ったとの結果となり、若年層には「ちゃんと」が有効な媒体であると考えます。

興味を持った事業所

	回答数	割合
あった	23人	71.9%
なかった	2人	6.2%
その他	4人	12.5%
無回答	3人	9.4%
計	32人	100.0%

「あった」が7割を超えている。

合同説明会の評価

	回答数	割合
とてもよかった	17人	53.1%
よかった	13人	40.6%
普通	2人	6.3%
よくなかった	0人	0.0%
計	32人	100.0%

「とてもよかった」、「よかった」が合わせて9割を超えており、有意義な説明会であったと評価できる。

合同説明会の形式について(複数回答)

	回答数	割合
今のままでよい	25人	75.7%
春頃	2人	6.1%
夏頃	3人	9.1%
その他	3人	9.1%
計	33人	100.0%

「今のままで」という回答が多かった。

合同説明会の時間について

	回答数	割合
ちょうどよい	26人	81.3%
時間を長くしてほしい	0人	0.0%
わからない	5人	15.6%
その他	1人	3.1%
計	32人	100.0%

開催時間を一時間はやめたが、好評であったと思われる。

次回の参加意向

	回答数	割合
参加する	27人	84.4%
参加しない	0人	0.0%
わからない	4人	12.5%
その他	1人	3.1%
計	32人	100.0%

「参加する」との回答が8割を超えている。

その他

- ・丁寧に説明をしてくれた。
- ・直接お話しすることができたので良かった。
- ・今後の選択肢が広がった。

など

事業所アンケート

アンケートの形式は自由記入形式とし、良かった点、改善すべき点などの意見があった。

(良かった点)

・会全体的には昨年と比べて来場者も多くてよかった。
・当事業所を知って頂く機会をいただきありがとうございました。また、参加させて頂きたいと思えます。いろいろな方の話を聞くことができ大変勉強になりました。
・事業所独自に飾りがあったり、ムービーや体験要素を盛り込んだりと工夫があつてよかった。
・はじめて参加しましたが他部門の方との交流や情報交換が出来、とても良かったです。
・ものすごく大事なイベントですので、周知させる会議を一度やりたいです。宣伝が大きな動きを作りそうです。
・開催時期は暑すぎず、寒すぎず良かったと思えます。
・会場は少し狭いかと思いましたがぎゅっとまとまっていたよかったと思う。

(改善点)

【会場について】
・来年の合同説明会はもっと広い場所でやってほしいと思えます。
・説明ブースと販売は別にやってほしい。
・会場の配置で飲食と説明の机が同じことで説明時、お客様の気が散ってしまう場面があった。また、販売で混雑していて、話をしたそうだけど入りこめずにいた方もいたようだ。
・物販と事業所説明の同一個所の設置だとスペース的に販売メインとなり、ゆっくり説明ができる雰囲気に見えなかった。物販をする、しないで違いの差が気になった。
・就労事業所の会場が狭かった。子ども部会、医療部門の会場は比較的広かった印象。車いすの方がどこかに立ち寄ると通路が塞がれてしまいすれ違えない。
・児童のところは全体的に寂しい感じがしたのでもう少し子どもが入りやすいように遊ぶスペースを設置したり、POPを作ったりして楽しい感じにしても良いかと思えます。
・エレベーターが開いてすぐにブースがある圧迫感と部屋に入ったときにみなさんの視線は気になったと話していました。
・受付の位置が分かりづらかったかもしれない。入場者からは視界に入りづらく気づかずに会場に直接来る方がいた。
・事業所名、場所、事業所形態等さがしづらさがあつた。
・休憩スペースに「休憩所」などの看板があつたらわかりやすいと思えます。
【運営面について】
・配布資料の中身について確認せずに事業所の場所、内容確認に戸惑っている方がいた。
・会場入り口で入りづらそうにする方。どこに何があるか困っている様子の方がいた。
・朝の段取りする時間が短く、準備する前に来場者が来てしまった。
・事務連絡に関して、集合の号令もなく、すぐはじまってしまったので事務連絡を途中から聞く人もいたのでは？集合するときに物品販売する事業所が多く金銭をブースに置いているのでその場を離れての集合は防犯上よくないと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の始まりの説明について、どこ集まるというのをはっきりさせてほしかった。開始の挨拶が急に始まり周辺に集まっていたが全く声が聞こえなかった。 ・就労に関する説明を聞きにくるという部分は人が少なく感じました。 ・物販色が強く出ている感じがしました。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場内撤収後、そのまま解散していいのかどうかはわからなかったため、次回から順次帰っていいのか終了の挨拶等の後に帰るのか決めてほしい。
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第5回 はたらく部会 報告	
日 時	令和2年1月17日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	26名 千歳市障がい者支援課(石黒)千歳市障がい者総合支援センター-Chip(新村)千歳地域生活支援センターせらび(今野)いずみワークセンター(玉井)株式会社119インターナショナル(結城)株式会社ミナモト(今井)株式会社メビウス(柳沢)株式会社ワークセンターピアハープ(猿山)株式会社帆の風(藤岡)株式会社ウィンドバレー(千葉)株式会社ドン・リースアンドレンタル千歳物流センター(佐々木)就労支援センターOm-Net(牧野)サポートセンターユリーカ(芦田)青葉の杜(森本)医療法人資生会CafeLeaf(田本)晴レルモキッチン(米澤)千歳わくわくわファーム(秋本)医療法人資生会千歳病院デイケアひかり(橋場)千歳こぶしくリニック(松田)石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・諏訪)千歳高等支援学校(斎藤・神上)オルポノ(有田・苅又)就労推進室やませみ(野田・加藤・下川部)
要 旨	<p>1. 協議事項</p> <p>(1) 令和元年福祉サービス事業所合同説明会 結果・報告</p> <p>(2) 地域課題(相談業務について 就労した方の窓口は?)</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>・就労推進室やませみ主催 企業セミナーのお知らせ</p>
内 容	<p>1. 協議事項</p> <p>(1) 令和元年福祉サービス事業所合同説明会 結果・報告 報告書は別紙のとおり。</p> <p>(2) 地域課題(相談業務について 就労した方の窓口は?等) 相談業務について あるB型事業所では、セルフプランが3/4を占めており、相談支援事業所を利用しているケースが1/4となっている。 利用計画作成ができる事業所が千歳市には2か所のみであり、利用計画作成が追いついていない状況について「部会で取り上げるべきではないだろうか」、「利用計画を大切にすべきではないだろうか」などの意見があった。</p> <p>就労された方の窓口は? そもそも障がいの方が就労されたとき相談窓口はどこなのか?という疑問があがった。障がい者が就労し、就労相談したいタイミングが土日の場合が多くリアルタイムで相談する場所がないという現状である。</p> <p>福祉サービス事業所の悩み 福祉サービス事業所の悩みとして、「セルフプランの場合は、対象者の生活状況や背景がわかりにくいいため、正直、雇い入れに勇気がいる。」、「相談事業所が増えたら嬉しい。」が挙げられている。</p> <p>潜在的な困った人 自らが困っていることを表現できる人は良いが、困っていることを表現できない人がたくさんいるかもしれないとの意見が挙げられた。</p> <p>ひきこもりと障がい者雇用について 引きこもりが現状の問題となっているがそこに行きつくためには高校から、社</p>

	<p>会人というルールにのれずにくじけることがあるのかもしれない。</p> <p>この課題に対して、積極的に合同説明会を周知すること、くじけないために就労移行支援や社会のルールなど様々な情報を伝える必要がある。</p> <p>その話の流れで、発達障がいのグレーゾーンといわれる人が見受けられるが、仕事をする上で何とかなるが、もやもやしている人がいるのではないか。企業側、事業所側が気軽に相談できる場所ができればいい街になるのでは？との意見が出された。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none">・就労推進室やませみ主催 企業セミナーのお知らせ
作成者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第1回 地域生活部会 報告	
日 時	令和元年7月18日13:00~
場 所	めいぷるサロンしろっぷ(千歳市自由ヶ丘6丁目5番8号)
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、古田委員、千歳地域生活支援センター(奥貫センター長)、千歳市障がい者総合支援センター(横山センター長(事務局次長))
要 旨	<p>1. 今年度の活動について</p> <p>2. 情報共有(今年度の地域で生活されている方の情報)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 今年度の活動について</p> <p>前回部会で取り組みの方向性として確認した内容を再確認。</p> <p>(1) 地域課題の掘り起し</p> <p>(2) 在宅(支援)の課題(存在把握のできていない方への支援)</p> <p>(3) 気軽に相談できる場所の確保</p> <p>気軽に相談できる場作りについて検討してきたが、具体的取組の前に震災を経験する事となり、地域生活を送る上で当面の課題として災害対策についての検討が上げられた。</p> <p>協議会の各部会をはじめ、関わる皆さんが課題と感じた事に関して意見の取りまとめを行ない、整えられる備えや取組について検討を行う事で、在宅支援の課題等についての具体的な課題整理に繋げていく事を方向性としていく。</p> <p>次回の部会では、各所から情報を収集し検討することにする。</p> <p>2. 情報共有(今年度の地域で生活されている方の情報)</p> <p>重度心身障がい・知的障がい・精神障がい等、それぞれの障がいによって、経緯や理由は違うが、コミュニケーションを取りながら生活して行く事が難しい方々の具体的な例について情報を共有している。</p> <p>地域の具体的な話題や、事例を把握する為の取組についても話題が出て、直接の声を聴く為の取組についても意見交換を行った。</p> <p>3. その他</p> <p>次回の開催</p> <p>2か月後に開催を予定する。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 地域生活部会 報告	
日 時	令和元年9月3日(火) 13:00~14:30
場 所	めいぶるサロンしろっぴ
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長)) 支援センターゆみな(清水所長) ふるたたから事務所(古田委員) 千歳市障がい者支援課(佐藤係長)千歳市障がい者総合支援センター(横山・新村)
要 旨	<p>1. 今後の活動について</p> <p>2. 情報共有(地域で生活されている皆さんの情報)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 今後の活動について</p> <p>(1) これまでの意見交換の内容、今後の活動について確認をした。</p> <p>地域で生活している弱者の把握。地域で暮らすために必要となるサービスの検討。地域の情報を得るためにどうするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各任意団体からの聞き取りが良いのではないか。 ・各事業所に情報提供を求める。 ・部会構成員をもう少し増やしていく必要もある。 <p>課題解決の方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を集約しておくことで、緊急時などに有効に活用することができる。 ・課題としてあがっている話とこうやったらよかったことなどの情報を集める。 <p>震災から1年がたち、各所から上がっている課題や情報についても取りまとめていく機会や方法について検討していく。</p> <p>(2) 地域生活部会の目的を鑑み、地域の課題の把握に継続して取り組んでいくが、震災で得た教訓や、課題を振り返る機会を作っていくのはどうかとの意見がでる。</p> <p>具体的な方法としてイベントを開催してはどうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回毎年開催。 ・自助・共助できることできないことを整理する。 ・行政・消防などの専門機関にお願いして災害対策等の講演を行う。 ・震災に関わる映画を上映する。 <p>開催について具体的に検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場確保、具体的開催内容について検討する。 ・定例会で報告し、委員の皆さんの意見を聞く。 <p>2. 情報共有(地域で生活されている皆さんの情報)</p> <p>時間の都合で共有できず、次回以降も継続的に取り組んでいく。</p> <p>3. その他</p> <p>イベント開催に向けて、必要な時に部会を開催していく。</p> <p>(日程は後日確認)</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 地域生活部会勉強会報告	
日 時	令和元年10月6日(日) 13:30~17:00
場 所	総合福祉センター4階 402号室
参 加 者	<地域生活部会> 古田委員、清水委員、奥貫委員 <当事者団体等> 20名 <事務局> 千歳市保健福祉部障がい者支援課職員
要 旨	北海道胆振東部地震発生から一年が経過し、当時を振り返るとともに自助・共助の在り方について意見交換を行った。
内 容	<p>タイトル：地域生活部会勉強会「災害時における自助・共助について」</p> <p><日程></p> <p>13:30~ 開会(古田委員からあいさつ)</p> <p>13:40~ 上映会「星に語りて」(きょうされん結成40周年記念映画)</p> <p>15:30~15:45 休憩</p> <p>15:45~16:25 講義「避難所開設・運営講習」(説明者：新谷障がい者支援課長)</p> <p>16:25~17:00 質疑応答、閉会</p> <p>講義終了後は、自助・共助に関するグループワークの実施を予定していたが、参加者から質疑応答の時間を長く設けてほしいとの意見が多くあり、グループワークに替えて、質疑応答の時間(16:25~17:00)を設け、勉強会を終了した。</p> <p><主な質疑・意見等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が避難所となっている場合に、体育館だけではなく教室も活用し、障がいのある人の避難スペースとするのが良いと思うが。 最寄りの避難所に避難していただき、その後福祉避難所に移るという方法がある。各教室については、基本的には個人情報(児童等の写真や絵画等の展示、教材など)保護の観点から教室の利用は難しいと思われる。 ・福祉避難所への移動はどのような方法が想定されているのか。 基本的には、各自での移動をお願いすることになる。 ・福祉避難所が5つあるが、ほっとす2か所は高齢者を想定している。北進小中学校と高等支援学校は実質的に当該校に通学している児童・生徒の避難所として想定されている状況であり、福祉センターだけでは収容能力が足りないと思われる。 また、避難所の運営においては、障がい種別で考える必要があると思う。 今年12月をめどに防災に関するガイドブックを全戸配布する。個別計画も策定中であり、いただいた意見なども参考にしながら、防災体制の構築を図っていくこととなる。 <p><今後の開催について></p> <p>地域生活部会では、活動の中心を「在宅生活に関する諸問題の把握と対応策の検討」としつつも、災害に関しても地域生活における課題の一つであると考えており、今後一定期間、毎年9月をめどに災害に関する勉強会・意見交換会の開催を検討していく。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第4回 地域生活部会 報告	
日 時	令和元年12月3日(火) 13:30~15:30
場 所	めいぶるサロンしろっぴ
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、支援センターゆみな(清水所長)、ふるた たから事務所(古田委員)、千歳地域生活支援センター(奥貫センター長)、千歳市障がい者支援 課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター(横山・新村)
要 旨	<p>1. 今後の活動について</p> <p>2. 情報共有(地域で生活している方の情報)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動について具体的内容の検討を行う。 開催した勉強会について、もう少し幅広く来ていただける機会にしてはどうかとの意見があり、北ガス文化ホールでの開催について意見が出た。 市内の関係者が中心であれば、福祉センターの402号室も可能であり、映画上映をするのであれば北ガス文化ホールが適しているとの意見が出た。 来年は、9月6日前後で開催。映画120分+意見を聞く方向で検討。次年度具体的内容について話し合うことになった。 また、別の機会で、座敷牢に幽閉された精神病者を救おうとして、日本の精神医療の夜明けを描いた一映画「夜明け前」(同じく「きょうされん製作映画」)を関係者で観るのがいいのではないかと意見もあった。 <p>2. 情報共有(地域で生活されている方の情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害後、どんな対策をしたかについて 事業者に行くのが良いのではないかと。訪問看護、生活介護・グループホーム事業所職員から、聞くのが良いのではないかと。 その際には、テーマをいくつか絞ると良い。守秘義務に配慮する。土日は業務で参加人数は少ないのではないかと等の意見がでた。 ・「どんなことに課題があって、どんなことに困っているか」について 関係機関・家族・本人から話を聞いていく。 高齢化、支援を受けていない方が支援につながる方法。金銭管理・成年後見等、関係機関同士の連携について検討していく。 ・初めの取り組みとして家族、本人の話を聞きたい。 本人・家族から話を聞いている事業者から情報収集し、その後直接本人・家族から話を聞くのが良いのではないかと。 <p>3. その他</p> <p>次回 2月13日(木) 18時~20時 社協2階 会議室 事業者から話を聞く会 テーマ「当事者・家族の困りごと」 開催予定</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第5回 地域生活部会 報告	
日 時	令和2年2月12日(水) 13:00~14:20
場 所	めいぶるサロンしろっぴ
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、支援センターゆみな(清水所長)、千歳地域生活支援センター(奥貫センター長)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター(横山・新村)
要 旨	<p>1. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の活動の方向性の確定する為の意見交換 ・事業所から話を聞く件について <p>2. その他</p>
会議内容	<p>1. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の活動の方向性の確定する為の意見交換 <p>「情報を得る」ことを目的として、事業所・支援にあたる人からの話を聞く会を開く。前回会議で、2月13日に開催する予定だったが準備・調整不足のため開催できず、改めて日程や内容及び参集範囲について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所から話を聞く件について <p>今回の参集範囲は、児童も含めてなのか、児童・高齢・障がい者なのか、どこまで案内するのか。</p> <p>居宅介護・重度訪問介護指定事業所の中で児童・障がい者にも対応している下記の10事業所にまとめて案内する。</p> <p>新富ヘルパーステーション、祝梅ヘルパーステーション、サポートセンターエブリ障がい者支援事業所ゆうび、ライフヘルプちとせ、千歳病院、ニチイケアセンター千歳、ナイスケアひまわり、訪問介護事業所すずらん、SOMPO ケア千歳訪問看護</p> <p>日程：3月19日18時から</p> <p>場所：千歳市総合福祉センター 307会議室</p> <p>内容については、地域で支援していて困っていること等のアンケートを事業所に配布し、回答をもとに検討するが、メンバーからも以下の様な意見がでた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で困っているところ。・緊急災害の時の対応。・現状のサービスなどの問題。 ・たとえば、具体的には、親の高齢化、通院に行けない、本人を連れていけない、親の理解をもらうのが大変、体重の増加、ボーダーの人の支援が必要、虐待の問題等。 人によって違う様々な問題について、工夫・調整法について聞いてみたい。 ・本人、家族間の課題、事業所の横のつながりの課題などについても意見を聞きたい。 ・今回の結果を見ながら次回・次年度以降の展開を検討していく。 <p>2. その他</p> <p>次回開催予定：後日確認</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 差別解消・虐待防止専門部会研修会 報告																																					
日 時	令和2年2月5日(水) 14:30~16:30																																				
場 所	総合福祉センター4階 402号室																																				
参加者	市内19機関27名(事務局含む)																																				
要 旨	<p>1.千歳市における障がい者虐待の現状について</p> <p>2.グループワーク</p> <p>3.グループワークの総括及び北海道における障がい者虐待の現状について</p>																																				
開催内容	<p>1.千歳市における障がい者虐待の現状について</p> <p>障がい者虐待に関する千歳市の体制や当部会の概要、平成30年度における障がい者虐待の通報件数などについて、千歳市保健福祉部障がい者支援課 石黒が報告を行った。</p> <p>具体的な内容としては、平成24年10月1日に障害者虐待防止法が施行されたことに伴い、障がい者支援課に「千歳市障がい者虐待防止センター」を設置し、365日24時間対応していること、平成30年度には、障がい者虐待に関する通報が3件あったが、いずれも虐待の事実は認められなかったことなどであった。</p> <p>2.グループワーク</p> <p>参加者をA～Dグループに分けそれぞれのグループで「普段の支援の中で虐待となり得ること」をテーマとしてグループワークを行い、最後にいくつかのグループが話し合った内容を報告した。グループワークの中では、参加者自身が「つい声を荒げてしまった」「利用者を静止するために腕をつかんでしまった」などの話があった。</p> <p>3.グループワークの総括及び北海道における障がい者虐待の現状について</p> <p>北海道石狩振興局保健環境部 社会福祉課 地域福祉担当 主査 古舘 裕民 氏にグループワークの総括をしていただき、その後、北海道における障がい者虐待の現状について、実際に対応した事例のほかアンガーマネジメントについての説明があった。</p> <p>4.アンケート結果について</p> <p>次年度以降の参考とするため参加者に対しアンケート調査を行い、回答数は24件であった。概要としては、グループワーク及び講話について「参考になった」が8割以上となっており、今後同様の研修会を開催するとした場合の参加意向については、9割以上が「また参加したい」とのことであったため、今後も継続して開催したい。</p> <p>アンケート結果は次のとおり。</p> <p>(1)性別</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>17</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>29.2%</td> <td>70.8%</td> <td>100.0%</td> </tr> </table> <p>(2)年代</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>20代</td> <td>30代</td> <td>40代</td> <td>50代</td> <td>60代</td> <td>70代</td> <td>80代</td> <td>無回答</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>8.3%</td> <td>33.3%</td> <td>25.0%</td> <td>20.8%</td> <td>4.2%</td> <td>0.0%</td> <td>4.2%</td> <td>4.2%</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	男	女	計	7	17	24	29.2%	70.8%	100.0%	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	計	2	8	6	5	1	0	1	1	24	8.3%	33.3%	25.0%	20.8%	4.2%	0.0%	4.2%	4.2%	100.0%
男	女	計																																			
7	17	24																																			
29.2%	70.8%	100.0%																																			
20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	計																													
2	8	6	5	1	0	1	1	24																													
8.3%	33.3%	25.0%	20.8%	4.2%	0.0%	4.2%	4.2%	100.0%																													

(3) サービス種別

生活介護	居宅介護	共同生活援助	就労継続A	就労継続B	放課後児童デイ	その他	計
1	1	1	3	11	2	5	24
4.2%	4.2%	4.2%	12.5%	45.8%	8.3%	20.8%	100.0%

(4) 役職

代表者	サービス管理者	作業指導員	生活指導員	介助員	その他	無回答	計
3	2	6	6	1	5	1	24
12.5%	8.3%	25.0%	25.0%	4.2%	20.8%	4.2%	100.0%

(5) 勤続年数

1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答	計
5	5	3	6	1	4	24
20.8%	20.8%	12.5%	25.0%	4.2%	16.7%	100.0%

(6) グループワークについて

大変参考になった	参考になった	まあまあ	参考にならなかった	計
13	9	2	0	24
54.2%	37.5%	8.3%	0.0%	100.0%

「参考になった」が9割以上となっている。

(7) 古館主査の講話について

大変参考になった	参考になった	まあまあ	参考にならなかった	計
14	9	1	0	24
58.3%	37.5%	4.2%	0.0%	100.0%

「参考になった」が9割以上となっている。

(8) 今後自らが実践したい事

- ・ 利用者の目的や目標に合わせて接することが虐待防止につながるのではないか。
- ・ 利用者・職員との間で優しい会話ができるよう努めたい。
- ・ 怒りのコントロール
- ・ 障がい者という目で見ないで、怒りを我慢し、その方、その方をよく見て対応すること
- ・ 指導は怖くないものと教えていただいたので、記録は素直にありのままを書こうと思いました。
- ・ 種別の違う事業所でも虐待かも？と思うことの背景は共通していることが多いと感じました。
- ・ とても参考になりました。大変有意義な時間でした。

(9) 今後の参加意向

参加したい	参加しない	わからない	その他	計
21	1	1	1	24
87.5%	4.2%	4.2%	4.2%	100.0%

「参加したい」が8割以上となっており、その他には「他の職員を参加させたい」とのことであった。

(10)開催時期

・ 9 ~ 11 月 ・ 6 月 ・ 7 月 ・ いつでも

(11)開催時間帯

午前	午後	夜	無回答	計
3	13	1	7	24
12.5%	54.2%	4.2%	29.2%	100.0%

(12)自由記載欄

- ・ アンガーマネジメントの講習
- ・ 就労継続支援事業所同士の情報交換
- ・ 障がい福祉の基本、仕組み、流れ
- ・ スペクトラム（アスペルガー）を持つ障がい者の対応などの研修会があるとよい。
- ・ アンガーマネジメント
- ・ 児童虐待について
- ・ 事例に沿って、自分たちの事業所でどういた対処をするのか話し合ってみたい。

作 成 者

千歳市保健福祉部障がい者支援課 主事 石黒 奨

令和元年度 第1回 手話言語条例推進専門部会 報告	
日 時	令和元年 8月30日(金) 19:00～20:30
場 所	千歳市社会福祉協議会 2階2・3会議室
参 加 者	千歳聴力障害者協会(佐藤会長(部会長))、千歳手話の会(神能会長)、手話サークルしらかば(岩倉会長)、千歳要約筆記の会やませみ(久保田会計) 北海道手話通訳問題研究会道央支部千歳・恵庭班(中村班長)、千歳身体障害者福祉協会(長助澤副会長)、千歳市社会福祉協議会(川北専従手話通訳)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長))、障がい者支援課(新谷課長、甲木係長、佐藤係長)
要 旨	<p>1. 自己紹介</p> <p>2. 活動方針</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 自己紹介</p> <p>(1)各出席者から自己紹介を行った。</p> <p>2. 活動方針</p> <p>(1)千歳市障がい者地域自立支援協議会について説明。 様々な地域課題について、情報共有、検討しながら解決していく会で、各事業所や公募市民等26名に参加いただき、年4回ほど定例会を開催している。 2つの専門部会(差別解消・虐待防止専門部会、手話言語条例推進専門部会)と、4つの地域部会(相談支援部会、こども部会、はたらく部会、地域生活部会)1つの協力組織(進路連絡会議)があり、各部会等で協議した内容は、自立支援協議会に報告し、情報共有している。</p> <p>(2)千歳市手話言語条例制定までの経緯と条例の内容について説明。 手話言語条例制定にあたっては、平成29年3月に手話言語条例専門部会が設置され、平成30年1月まで計11回にわたって条例に関する協議を続けてきた。それらを経て平成30年3月8日に「千歳市手話言語条例」が制定された。 千歳市手話言語条例では、一般的な条例にはない前文が制定されており、その中で言語の定義や手話が言語として認められてこなかった歴史的背景などが盛り込まれている。</p> <p>(3)活動方針について 千歳市手話言語条例第6条(1)～(3)の施策の推進に関する検討を行うこととした。 【千歳市手話言語条例第6条(施策の推進)】 (1)手話に対する理解の促進及び手話の普及を図るための施策 (2)手話による意思疎通及び情報の取得がしやすい環境づくりのための施策 (3)手話通訳者の確保及び養成をはじめとする手話による意思疎通支援のための施策 (4)前3号に掲げるもののほか、この条例の目的を達成するために必要な施策</p>

	<p>3. その他</p> <p>(1) 部会構成員について、千歳聴力障害者協会主体で開催している千歳市手話言語条例推進委員会の3つの部会の各部長を専門部会に加えたいとの提案があったが、推進委員会と専門部会のあり方について、全会の一致が得られなかったことから、次回の検討事項とした。</p> <p>(2) 部会開催については、3か月に1回、年4回程度の開催とする。</p> <p>(3) 次回の開催は10月中を予定する。</p> <p>(4) 次回の障がい者地域自立支援協議会定例会は11月頃に開催予定。</p>
作成者	千歳市保健福祉部障がい者支援課障がい福祉係 甲木 心之介

平成 31 年度 第 2 回 手話言語条例推進専門部会 報告	
日 時	令和元年 11 月 1 日(金) 19:00～20:50
場 所	千歳市社会福祉協議会 2 階 2・3 会議室
参 加 者	千歳聴力障害者協会(佐藤会長(部会長))、千歳手話の会(神能会長)、千歳要約筆記の会やませみ(打矢代表) 北海道手話通訳問題研究会道央支部千歳・恵庭班(中村班長)、千歳身体障害者福祉協会(長助澤副会長)、千歳市社会福祉協議会(川北専従手話通訳)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長))、障がい者支援課(甲木係長、佐藤係長) 手話言語条例推進委員会(長助澤部会長(ちとせの手話部会) 佐々木部会長(手話普及部会))
要 旨	<p>1. 手話言語条例推進委員会からの報告</p> <p>2. その他</p>
会議内容	<p>1. 手話言語条例推進委員会からの報告</p> <p>千歳聴力障害者協会が主体となり、手話関係団体と共同で開催している手話言語条例推進委員会の 3 部会から取組状況についての報告があり、意見交換した。</p> <p>(1) ちとせの手話部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 千歳市内の地名、町名、観光地(道の駅、水族館、レラなど)の手話について検討しており、最終的にはパンフレットのような形でまとめたいたいと考えている。 千歳市民憲章の手話を録画した DVD を作成した。来週開催される千歳市社会福祉大会へ向け、登録手話通訳者に配布した。 作成したものを、どのように利用・活用し、手話を普及していくかが課題となっている。 <p>(2) 手話普及部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機関でどのような配慮が必要になるかをシミュレーションした DVD を製作中。作成にあたって、市民病院に協力をお願いしたいと考えている。完成後は研修などで利用してもらえるよう医療機関に配布したい。 今後、市役所やハローワークなど公共機関での手続き等を想定したバージョンも制作する予定。 <p>(3) 講座関係部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校の福祉の授業で使用するテキストについて内容を検討している。今年度中に新しいテキストを完成させ、来年 4 月から使用したいと考えている。 テキストの作成が終わり次第、一般向けのテキストについても検討したい。 <p>2. その他</p> <p>(1) ろうあ者に対する相談支援について</p> <p>ろうあ者の中には困ったことがあるときにどこに相談すればいいかわからない者がいる。さらに、自分と同じようなろうあ者にしか相談したくないという人もおり、どのように相談に結びつけるかが課題となっている。</p> <p>ろうあ者相談員の設置も有効な手段の一つと考えられるが、今後の課題として共有し、引き続き部会で検討していくこととしたい。</p>
作成者	千歳市保健福祉部障がい者支援課障がい福祉係 甲木 心之介

令和元年度 第1回進路連絡会議 報告	
日 時	令和元年7月17日(水) 13:30~15:30
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	千歳市内事業所(17名) 養護学校・高等養護学校(15名) 事務局(3名) 行政(1名) 参加者合計 36名
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.平成30年度卒業生の状況 2.就労アセスメントについて 3.在校生の進路希望と実習状況 4.情報交換会
会議内容	<p>1.平成30年度 卒業生の進路動向について</p> <p>各学校(8校)から平成30年度卒業生の進路動向について報告があった。 卒業生28名中9名は、福祉事業所を利用し、就労継続B型2名・A型2名 就労移行支援5名。 生活介護2名、一般就労16名、進学1名の内訳となっている。 近年の傾向として卒業と同時に他地域の勤務先で生活する為にGHや社員寮で生活する卒業生が増えている。地元に戻っても自宅ではなく、GHで生活する方が増えている。他市町村から千歳に転入しGHで暮らす方も増え、進路先として働く場のみではなく、暮らしの場についても検討が必要となっている。</p> <p>2.就労アセスメントについて</p> <p>障がい者支援課から、来春卒業予定者の就労継続支援B型事業所利用に係る取扱いについて報告があった。 昨年度と同様に就労移行支援事業所によるアセスメントが必要であり、実施に当たっては、在学中にサービス等利用計画を相談支援事業所で作成することが必須である。</p> <p>3.在校生の進路希望動向について</p> <p>各学校(9校)から在校生の進路希望の報告があった。 高校3年生29名中13名が福祉事業所への通所を希望している。(一般就労14名、進学1名、未定1名) 高校2年生32名、1年生33名(報告のあった生徒の数のみ記載)の進路希望先は一般就労、福祉事業所利用の希望はおおよそ出ているが、1年生では進路希望について今後確認される学校もあった。</p>

進路検討の材料として、市内事業所から定員の空き情報や、活動の様子について情報をいただく。就労支援事業所の多くは受け入れ可能との情報を頂くが、生活介護、グループホーム、施設入所に関しては定員を超えての受入れの現状が話されている。

また、就労支援事業所からは、給与、工賃を支払っていく為に、施設外就労等の作業が増えているとの情報があった。

4. 情報交換会

住まい・一般就労・福祉就労、直Bの3つのテーマに分かれて実施。

(1) 住まいについて

学校・グループホーム・相談支援事業所のそれぞれの立場から意見・課題等を聞いた。

グループホームの空き情報は少なく、将来的な住まいの確保に課題があることを共有している。

グループホームで生活し活躍されている話がある一方で、職場定着がうまくいかずに、経済的に生活の場の維持が困難になる。生活介護・施設入所等を希望される方の進路調整に苦労している等の話が出た。

(2) 一般就労について

学校・就労継続支援A型・B型事業所・就労推進室それぞれの立場から意見を聞いた。

作業能力とは別に社会人としての基本的なマナーを在学中に身につけられていることが重要との話があり、学校でも課題として取り組んでいると話があった。

また、実際の就労場面と実習場面では差異がある事を理解してもらう必要がある。

一般就労の希望も多くなり、企業開拓に関する学校、福祉事業所それぞれの現状についても意見交換を行った。限られた社会資源の利用に関して連携を深めていければとの意見が出ている。

(3) 福祉就労について

学校・生活介護事業所・就労継続支援B型事業所・相談支援事業所のそれぞれの立場から意見を聞いた。

就労アセスメントの実施内容について、他市町村の取り扱いについて等の情報の話があった。

アセスメントの時期、平日に行うと学校を休むことになる件や、生徒によっては移行支援事業所に通ってのアセスメントが難しい方がいるなどの課題が出ている。

就労を断念、今後の目標として就労継続B型を希望する方と、生活介護と就労継続B型との選択でB型を希望する方との意識や経過の違いについても意見が交わされた。

今年度就労アセスメント対象者の対応事業所について、それぞれ受け入れの事業所について、仮の調整が行われている。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第 2 回進路連絡会議 報告書	
日 時	令和元年 11 月 25 日(月) 13:30 ~ 15:30
場 所	千歳市総合福祉センター 402 号室
参 加 者	千歳市内事業所(14 事業所 14 名 + 2 相談事業所 4 名 = 18 名) 養護学校・高等養護学校(13 校 21 名) 事務局(3 名) 行政(1 名) 参加者合計 43 名
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度卒業生の進路状況 2. 就労アセスメント進捗状況 3. 在校生の進路希望と実習状況 4. 情報交換会(課題共有・今後の連絡会の在り方について等)
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度 卒業生の進路動向について <p>各学校(7 校)から令和 1 年度卒業生の進路動向について報告があった。</p> <p>卒業生 34 名のうち 22 名が一般就労で福祉事業所が 9 名いる。内訳としては、生活介護 2 名、自立訓練 1 名、GH 4 名、宿泊型自立訓練 1 名、施設入所 1 名である。</p> 2. 就労アセスメントについて <p>4 名中 3 名は終了しており、1 名は 18 歳になってから実施する予定である。</p> 3. 在校生の進路希望動向について <p>各学校(10 校)から在校生の進路希望及び小中学部の在籍状況について報告があった。</p> 4. 情報交換会 <p>不登校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では、放課後等児童デイサービスと連携し、コミュニケーションのきっかけ作りをデイサービスで行い、登校に繋げていった例があげられた。 ・本人が思いを持って登校しないケースや、家族に危機感のない場合は解決に時間がかかる。高等支援学校では出席日数足りないと卒業に向けて検討が必要になるが、本人、家族の卒業したい意志あれば卒業は認められるケースは多い。 <p>事例としてあげられた話題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の財布から金盗る。 ・SNS でトラブルになるケース。 ・両親が障がい者である家庭の連携や支援について。 ・中途退学後も学校が支援を継続しているケース。 <p>OGH の利用時に必要な経費について質問があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金(2 級)と事業所(B 型)があれば、その他に費用がなく利用開始できる事業所や、

	<p>入居時に利用保証金 10 万円が必要で月の経費が 8 万円必要な事業所もある。 進路連絡会議では進路=就労の形式で会議を継続してきたが、就労に限らず金銭管理 や健康管理。生活の場の確保・ヘルパーの利用や余暇の過ごし方といった生活全般の 課題についても話題にできる会議として継続していきたい。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和1年度 千歳市障がい者総合支援センターChip 事業報告

令和2年3月31日

1. 相談支援業務

【委託相談支援】

委託相談事業所として今年度も多くの相談を頂き、情報提供、関係機関との調整等を行い、サービスを必要とする皆様のケアマネジメントに係ってきた。

利用者・関係機関・行政との関係構築はもとより、経験値の底上げにも時間を割き、利用者と正面から向き合い、計341名の実人数の皆様延べ3,358件の相談を頂いている。

相談の傾向として、多種多様に広がって行く相談の中で、関係機関との連携や障がい福祉事業所以外（介護、医療、教育、企業等）の機関との連携も必要となるケースが増加し、適切な対応を効率的に行う事でニーズに応えることを行って来たが、市内の社会資源では対応が厳しく近郊市町村の協力を得ながらの支援の確保が余儀なくされている。

特に重度と言われる方、中でも行動障害や肢体不自由、特定疾患の皆さんが、希望する地元での生活に伝えていく事は今後の課題となっている。

今年度の相談内容の特徴として就労に関わる相談に合わせ、生活の場を求めてグループホームの問い合わせ・相談が多くあった。

また、休日の過ごし方の充実を求められ、本人活動やサークル活動等の問い合わせも増えてきているが、当事者の会は限られ、趣味嗜好の幅も広がってきていることから、求めるところにたどり着けない場合もあり、情報提供を継続している。

手帳を持たれない方の様々な相談、家族支援のみで生活されていたが保護者の高齢化で初めて相談に来られるケースに関しては、継続的に信頼関係の構築から始め、成果までの時間が必要となっている。虐待案件としての対応はないが、不安を抱えるケースもあり、直接支援の立場ではないが見守りの目として継続して動いている。

新就学・不登校・卒業等に関する教育との連携を家族支援も含めて必要とするケース、介護保険受給者で障がい福祉制度の利用をされるケースの相談等々、これまで障がい福祉制度・支援に係ることのない、又は最小限の支援で生活されてきた方からの相談を直接、他機関からのご紹介で頂く事も増加している。

相談件数の比較

相談総数		月平均
令和1年度	3,358件	280件
平成30年度	3,353件	275件
平成29年度	2,817件	235件

2. 自立支援協議会

事務局の任を担い、活動の中心となる各部会では構成メンバーとして地域課題の抽出や、主催事業に関わり事務局業務にもあたっている。

【相談支援部会】

地域生活支援拠点等の整備について、千歳市から方針やスケジュール、目的や必要な機能の説明を受け、障がい者の緊急時の受入れ体制の構築や地域移行を進める支援体制作りに向けて、現状と課題について会議の中で話し合いを重ねている。

部会員が日頃の業務の中で関わった困難事例や地域課題について、会議の中で共有している。障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に関わる課題、重度障がいの方の緊急時の受入れ先、親亡き後を見据えた地域生活での暮らしを支える支援、引きこもりの長期化等、様々な課題があげられている。

具体的な事例をシートで残し共有することを積み重ねていくことで、例えば当時の対応者の退職や部会員の入れ替わり等があっても、類似したケースへの対応や困難ケースに生かすことができるという話もあがっている。

・障がい福祉勉強会

福祉事業所職員の資質向上と各事業所・機関の交流の場として、福祉職経験年数の比較的浅い職員を主な対象として、今年度も引き続き開催している。

毎回一定数の申込みを頂いている状況であり、就労支援事業所、居宅介護事業所や地域包括支援センター、医療機関等様々な職種の方にご参加頂いている。

テーマや内容、講義・実践報告の講師の選定・依頼については企画チームが主となり、相談支援部会の会議内での話し合いや報告を行いながら進めている。毎回グループワークの時間を設けており、多職種による意見交換や市内の現状把握、日頃の業務ではあまり関わりのない事業所や機関の職員同士のつながりができる場のひとつとなっている。

【こども部会】

2カ月に1回、偶数月に開催している。児童の事業所・児童に関する行政機関・学校を構成メンバーに、地域課題の集約、検討の場として話し合いを行っている。その他、市内在住の障がいを持つこどもを対象に、長期休暇のイベントとしてレッツスマイル、情報交換会、支援者勉強会の企画運営、はたらく部会と共催で福祉サービス事業所の合同説明会を行っている。

レッツスマイルはこれまでの参加者・ご家族・ボランティアからアンケートで頂いた意見をもとに、構成メンバーと目的地の候補を挙げ決定している。夏企画では、小樽市総合博物館で鉄道展示室や屋外車両展示の見学、蒸気機関車アイアンホース号の乗車体験などを行った。冬企画では滝野丘陵すずらん公園スノーワールドで雪遊びを楽しんだ。当日は近隣の高校・専門学校・大学にボランティアを依頼し、こどもたちと楽しく過ごせるよう協力していただいている。

情報交換会は、発達が気になるこどもの保護者を対象に、テーマを設定し各グループで日頃の悩みなどを共有する場として企画している。今年度はテーマを就学に向けて、福祉サービスについて、就学に向けての3つに設定し参加者と部会構成メンバーで情報交換を行っている。

事業所合同説明会は昨年度と同様にはたらく部会と合同で行い、児童が利用可能な事業所の個別説明・相談の場となっている。支援者勉強会は、こどもの学校での様子や指導内容を見てみたいという意

見が構成メンバーからあり、かかわりの深い学校として南幌養護学校と千歳高等支援学校の学校見学を行う。

【はたらく部会】(就労推進室やませみが運営の中心を担う)

2カ月に1回の頻度で市内就労系事業所が集まり地域課題等の情報共有の場となっている。例年開催されている視察研修は市内就労系事業所を見学。11月に障がい者就労支援事業所を中心にこども部会と共催で合同説明会を開催し、当事者・家族に限らず、福祉関係者、学校、行政機関など幅広い参加があった。

今年度も、部会開催時の欠席が目立つ状況で、地域課題の抽出や具体的に事業所運営にプラスになる部会運営について構成メンバーの声を聴き内容の検討を継続的に行って頂きたいと切に願っている。

【地域生活部会】

地域課題の掘り起し、在宅(支援)の課題(存在把握のできていない方への支援)、気軽に相談できる場所の確保を運営の方向性として確認している。

震災から1年がたち、得た教訓や、課題を振り返る機会として「地域生活部会勉強会」を10月6日に開催した。内容は、映画「星に語りて」の上映と、「避難所の運営について」の講演があった。

参加者の防災に対する意識の高さが感じられる、活発な意見交換が行われた。

次年度の具体的活動内容設定の為に「地域で生活する障がいを持つ当事者・家族の困りごと」の情報収集を目的に事業所支援者の皆さんからお話しを伺う機会を設けることを次年度に引き継いでいく。

【進路連絡会議】

今年度も夏と冬の2回の実施。昨年に続き、卒業すぐにB型の利用を希望される方の進路について、在校生・卒業生が適性に希望している進路先につなげる為に、就労系事業所、行政機関、学校と相談支援事業所が連携を図りながら卒業後の進路先の定着支援、卒業予定者の地域生活の円滑なサービス調整、在校生の課題共有を行った。

卒業後に支援の調整が必要となり改めてサービス等利用計画の作成依頼を受けるケースも少なくない実情を踏まえ、卒業前に支援の必要性について広く検討して行く事が必要との声を受け、2回目の開催を11月にして、就労に限らず、生活の場や生活支援、多くの支援を必要とする生徒の支援について協議をしている。

個人情報の取り扱いもあり、その場での相談は限られていたが、追って連絡を頂き、調整を行うケースがあった。

【差別解消・虐待防止専門部会】

本専門部会は「千歳市障害者差別解消支援地域協議会」を兼ねて運営している。

高齢者支援機関と合同で会議を行い、それぞれの事案の報告等を行っている。

【手話言語条例推進専門部会】

施行された手話言語条例の推進を目途に今年度新たな部会が設置された。すでに活動を始めている「推進委員会」の活動内容を確認し、それぞれの役割を確認して条例の推進に向け活動を行っている。具体的な活動については、今後も部会で検討していく。

3．当事者活動サポート

【自立生活プログラム】

地域で生活する当事者の自立に向けて、外出、調理、金銭管理、暮らし等をテーマに例年継続して実施してきた同プログラムであるが、本年度も開催の調整が困難となり未実施となっている。

当事者のニーズに応えて、再開する為の準備を継続して行なっている。

【千歳星の会】

月に1回、年12回の開催。例年通りに参加メンバーで話し合った企画をもとに実施。週末に休日がない方、他の団体の活動に参加されている方も多くなるなか、市内事業所にも協力頂き多くの皆さんに参加頂いている。楽しめる活動を中心に展開し行事には18～20名の参加者で活動することが可能となっている。余暇活動のみならず、日々の生活で感じる不安や課題の解決、自立生活プログラム再開の意見交換を含めた活動を目標に継続した取り組みを今後も検討していく。

高等支援学校の卒業生からのリクエストに応え、バスケットボールサークルを月1回の頻度で開催している。経験、体力にこだわらず、体力つくりの場としてメンバー募集を行っている。

4．相談事業の質的強化、ネットワーク充実

スタッフおよび市内の相談支援の資質向上、関係機関とのネットワークの充実に向けて、研修会・会議の参加、開催協力を行った。

【個別支援計画作成研修】(今年度 4回開催予定)

近郊で施設入所支援を有する4法人が実施している「個別支援計画作成研修」の事務局を担い、企画、調整、運営等について協力を行っている。また、相談支援専門員として研修にも参加し、サービス等利用計画と個別支援計画、それぞれの意味と必要性について発信していく機会になる様に努めている。

【ネットワーク会議】(2か月に1度の開催)

圏域相談 夢民の主催で石狩圏域の相談支援事業所が定期的に相談支援の現状、地域課題等について情報共有を行っている。

【千歳市教育支援委員会・千歳市特別支援教育専門家チーム委員会】

専門医、学識経験者、教育関係者、福祉関係者が、心身に障がいのある児童、生徒及び就学予定者の適正な教育支援を行う事を目的に、適正な就学指導の為の諸調査・検査を行い教育委員会に答申することを目的としている。

今年度も会議等で市内の児童生徒の進路について各校コーディネーター等の調査・検査を元に進路の方向性について判断、答申している。

各学校から情報を頂く機会となり、その後の相談に繋がるケースも増え、相談業務に理解を頂けてきたことは、参加の目的の一つとして成果が見られている。

【計画相談支援（委託外）】

これまでの継続支援と、委託相談からサービス利用に繋がるケースの計画作成を中心に、卒業生の就労支援に係る計画作成等もおこなっている。

委託相談同様に必要とするサービスも多岐にわたり、地域生活や自立に向けてのお手伝いを進めて行く中で限られたサービスの調整に苦慮する機会は少なくないのが現状である。

医療機関退院後の生活等、新たに居宅支援や通院のサービスを求められるケースや、千歳市では対応の少ない身体・重度心身障害の方の日中支援の確保が厳しい状況が続く中、休止の事業所も出るなど、より一層の地域生活の厳しさが露呈されている。

また、家族の緊急の入院時の短期入所の確保、自宅生活困難な状況でも入所施設の確保が難しく、自宅で家族が負担を背負っているケースの対応にも苦慮している。

又、セルフプランから更新時の計画への変更も進められていく中、相談支援事業所・専門員の役割もより重要となっていることを考えると、利用者のニーズに沿ったケアマネジメントを行っていく為にも支援員の質の向上は当然のことではあるが、ニーズと専門員の数とのアンバランスの解消の為に課題を持って検討をしている。

作成件数年度比較	計画作成/モニタリング	児童計画作成/モニタリング
令和 1年度	121件/248件	13件/15件
平成 30年度	114件/191件	11件/ 8件
平成 29年度	128件/233件	11件/17件

事業所名: 千歳市障がい者総合支援センター

1 相談件数(本人・家族別)

	本人	家族	その他	合計(+ +)
件数	1649	656	1053	3358

2 相談件数(性別)

	男性	女性	性別不詳	合計(+ +)
件数	1851	1424	83	3358

3 相談件数(年齢別)

	18歳未満	18~39歳	40~64歳	65歳以上	年齢不詳	小計(+ + +)	合計(+ + + +)
件数	445	1988	799	26	100	2913	3358

4 相談件数(新規・継続別)

	新規	継続	計(+)
件数	31	3327	3358

5 相談件数(相談形態別)

	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計(+ + + + + + +)
件数	577	497	66	2117	5	45	11	40	3358

6 相談件数(障害別)

	身体	知的	精神	児童(身体)	児童(知的)	その他	合計(+ + + + +)
件数	548	1290	1000	11	271	238	3358

7 相談内容

(1) 生活全般に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数	項目	件数
ケアのこと	1,827	健康・医療	859	年金・所得	272	情報提供	1,027
住宅環境	588	就労	953	社会参加・余暇	510	対人関係	419
コミュニケーション	348	補装具・日生	4	地域連携	316	精神疾患	254
苦情	0	権利擁護	60	家族関係	993		0
教育	270	移動	44	手帳	30	その他	261

(2) 施設等サービス利用に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数
入所	49	施設案内・概要	10		0
通所	1,202	グループホーム	260		0
デイサービス	141	施設の入所体験	3		0
ホームヘルパー	519	ショートステイ	102		0
入浴サービス	47	苦情(サービス事業所)	2	その他	139

(3) 制度利用に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数
行政・制度関係	1,153	生活保護等	59		0
申請手続き等	216	苦情(制度利用)	0		0
関連機関の紹介	1		0		0
年金関連	30		0		0
成年後見制度	11		0	その他	70

特記事項

事業所名: 千歳市障がい者総合支援センター

8 相談支援を利用している障害者等の人数

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
人数	障害者	281	61	6	119	51	38	4	2
	障害児	47	4	0	15	0	11	0	17
	合計	328	65	6	134	51	49	4	19

9 支援方法(再掲)

	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計(+ + + + +)
件数	577	497	66	2117	5	45	11	40	3358

10 支援内容

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	3,631	2,081	859	316	270	1,760	361	1,935	953
ピアカウンセラー(再掲)									

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計 (+ + + + + + + + +)
件数	554	71	470	13261
ピアカウンセラー(再掲)				0

令和元年度 千歳市障がい者相談支援機能強化事業 報告

千歳地域生活支援センター
センター長 奥貫 あい子

千歳地域生活支援センターは、指定特定相談支援事業所・指定一般相談支援事業所として、「千歳市障がい者相談支援機能強化事業」を受託し、「地域活動支援センター 型」として運営している。また、他に北海道から「精神障がい者地域生活支援事業」を受託し、精神障がい者の地域移行・地域定着に向けた取組も行っている。

1. 相談実績

(1) 相談者の状況(千歳市内のみ)

相談件数は延べ4,901件。相談者は「本人」が62%(3,021件)、「家族以外(関係者等)」が34%(1,688件)、「家族」4%(192件)となっている。障がい別件数では、「精神障がい」が76%、「発達障がい」が6%、「知的障がい」が13%、「身体障がい」が2%、「その他」が3%だった(重複障がいの方の場合は精神障がい以外に所持している手帳を優先して計上)。年齢別では「40~64歳」が最も多く64%、「18~39歳」が31%、「65歳以上」が3%であった。

相談形態は「電話」が一番多く44%(2,147件)、「訪問」9%(429件)、「来所」6%、「個別支援会議」5%(263件)となっている。計画相談のモニタリングの際に本人や家族、サービス事業所等の関係者と複数名でのモニタリング会議の形を取る機会が増え、個別支援会議の件数が前年度に比べ増加している。

(2) 相談内容(項目の重複あり)

相談内容は「生活全般の相談」が56%と一番多く、次いで「施設等サービス利用の相談」の42%となっている。

生活全般の相談では「精神疾患に関わる相談」(症状、治療、病院のことなど)が29%、「話し相手」(心理情緒面の受け止め等、比較的軽微な相談)16%、「健康・医療」「対人関係」「家族関係」がそれぞれ7%となっている。「話し相手」は、毎日のようにかけてくる方から、ふと不安になった時などに話をすることで気分転換をしている方など様々だが、短時間傾聴する等で安心される場合が多い。

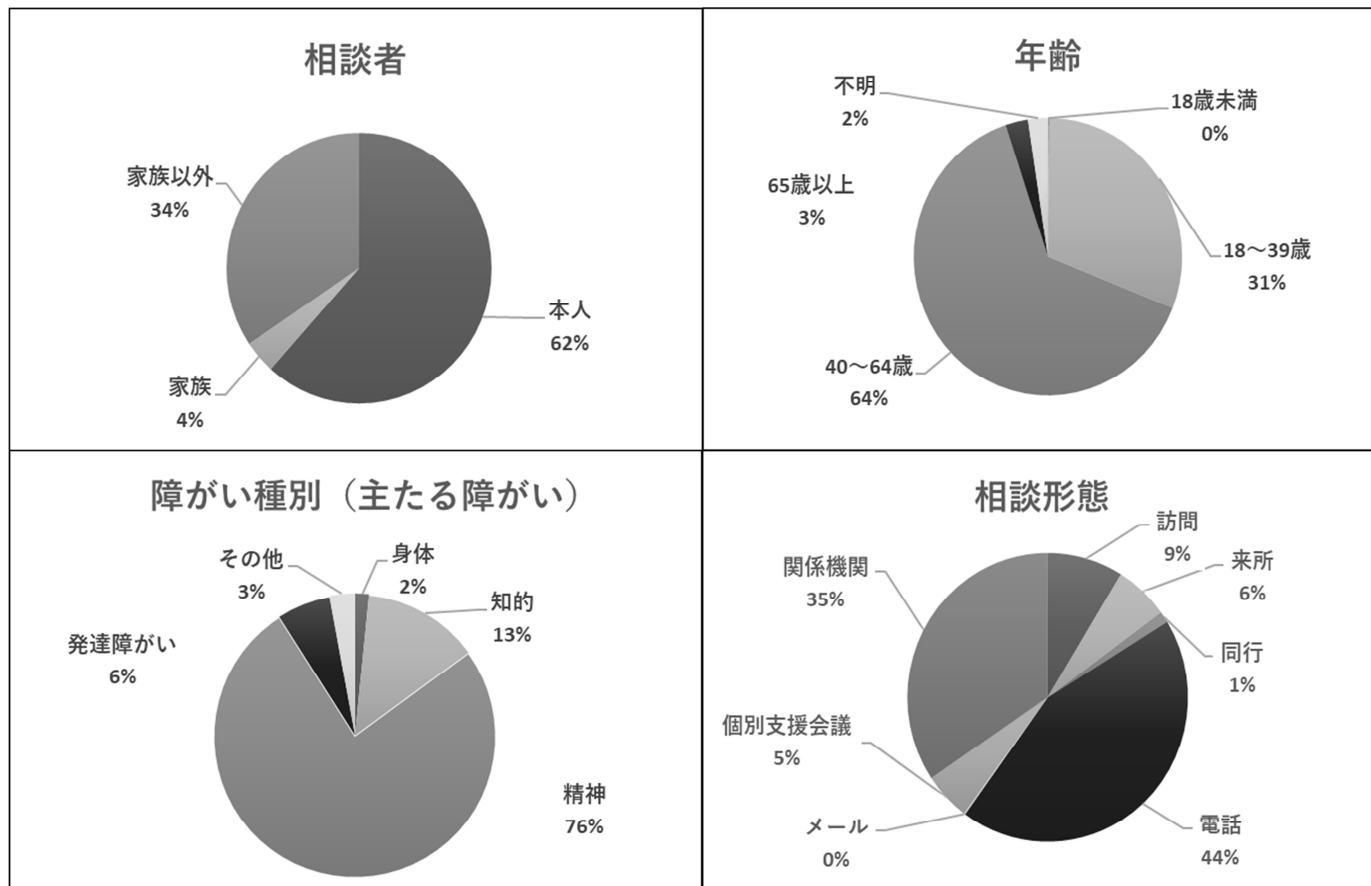
施設等サービス利用の相談では「通所系サービス」が67%と一番多く、ここ数年の傾向として変わらない。市内には就労支援事業所が近隣他市と比べても非常に多くあり、サービスの利用開始前から安定通所に至るまで複数回の調整が必要となることも多い。また令和元年度は居住系サービス(グループホーム等)も増加した為、特に後半は関連の相談も多くあった。

制度等利用相談では、「障がい福祉サービス」が26%の他、「生活保護等」22%、「年金等」13%、「その他」は介護保険や日常生活自立支援事業に関する相談などとなっている。

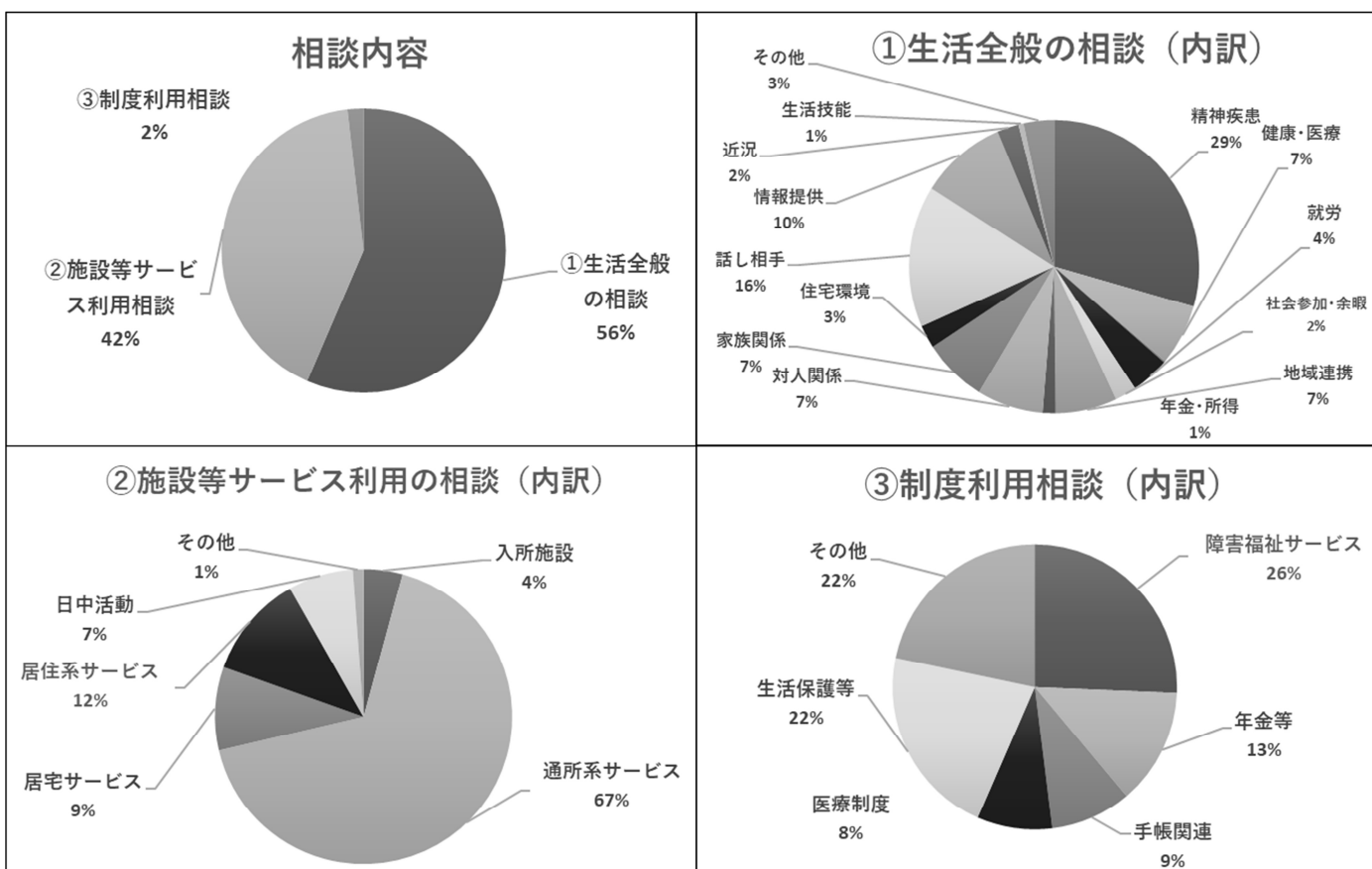
2. 特定相談支援事業所(計画相談)勉強会

市内の特定相談支援事業所を招集して、計画相談を中心とした勉強会を年数回開催。令和元年度は、計画相談について障がい者支援課担当者との申し合わせ、計画相談及び委託相談等の件数や相談傾向の情報交換、事例検討、市内社会資源の常用共有など行っている。

1. 相談実績 グラフ(1) 相談者の状況



(2) 相談内容



令和元年度千歳市障がい者就労支援推進事業実績報告

就労支援報告

1 企業開拓

企業訪問・来室・電話 93社(延べ169件)
企業からの施設外就労の斡旋 2件

2 就労支援 実績

(1)新規相談登録者数 23件(うち支援学校6件)

(2)新規就労者数 6名(うち年度内離職者数 0名)

- ・就労相談の傾向としては精神5名、知的13名、身体2名、不明3名。
- ・新規相談登録者数のうち10名は一般就労の準備性を整えることが必要と判断し、就労継続支援事業所の利用の継続や新規利用につなげる。

(4)職種

- 1 介護
- 2 調理補助
- 3 品出し
- 4 クリーニング業
- 5 食品加工

3 定着支援(面談・職場訪問)の成果

令和2年3月末	4年以上	一般就労継続者	14名
	1年以上4年未満	〃	11名
	1年未満	〃	6名

4 定着支援職場巡回及び定着面談

- ・(株)ホクリョウ千歳工場
- ・(株)アレフ
- ・(株)日清医療食品
- ・(株)ゲオ千歳駅前店
- ・ANA新千歳空港(株)
- ・(株)もりもと
- ・シダックス大新東 ヒューマンサービス北海道支店

- ・(株)エア・ウォーター農園
- ・トヨタカローラ札幌(株)新車受渡センター
- ・田中製餡
- ・(株)北泉
- ・デイサービス ふくろうの森
- ・デイサービス ゆうしんかん
- ・ダスキンスープ北海道
- ・岩田醸造(株)千歳工場
- ・大東建託(株)苫小牧支店
- ・(株)トーチク
- ・(株)ニチイ学館
- ・コープ宅配システム トドック千歳センター
- ・コープさっぽろ パセオ住吉
- ・(株)NOYAU
- ・イオン(株)千歳店 デリカ
- ・函館税関 千歳支所
- ・日本食品分析センター
- ・全日本食品(株)北海道支社
- ・(株)北海道C I C 研究所
- ・ツルハホールディングス千歳高台店

令和2年3月31日

社会福祉法人 千歳いずみ学園

就労推進室 やませみ

令和2年度 千歳市の障がい福祉施策等について

1 令和2年度 障害福祉関係予算の概要

障害福祉費予算額 2,603,958千円(前年比2.8%増)

<主な内訳>

事業名	予算額 (千円)	前年度比 (%)
(1)自立支援給付事業	2,202,294	+3.7%
介護給付費等(訪問・就労支援・入所等)	2,013,621	+3.1%
自立支援医療費(更生・育成医療)	143,591	+8.4%
補装具費	32,954	+24.0%
療養介護費ほか	12,128	+11.5%
(2)地域生活支援事業	103,761	8.9%
点字図書室等運營業務委託料	9,510	2.0%
意思疎通支援事業委託料	8,833	+1.7%
相談支援機能強化事業委託料	6,275	+0.9%
訪問入浴サービス事業委託料	7,293	+10.7%
成年後見センター運營業務委託料	4,373	+49.2%
地域活動支援センター運営費補助金(基礎・強化)	18,000	増減なし
自動車運転免許取得・改造費助成	718	増減なし
日常生活用具給付費	22,832	+5.1%
移動支援事業費	13,821	35.2%
日中一時支援事業費	10,971	35.6%
その他(パンフレット作成費、福祉ホーム運営補助金等)	1,135	+15.6%
(3)障がい支援区分認定等事業(認定審査、相談支援給付費)	19,242	+0.2%
(4)特別障害者手当等支給事業費	32,787	+0.2%
(5)障がい者総合支援センター運営事業費	19,633	+2.9%
(6)日常生活支援サービス事業費	3,591	+10.5%
移送介助サービス事業委託料	1,772	+41.9%
障がい者除雪サービス事業委託料	302	+1.3%
障がい者訪問給食サービス事業委託料	801	15.0%
障がい者紙おむつ給付費	716	5.8%
(7)福祉サービス利用券助成事業	43,849	+0.5%
(8)精神障害者社会復帰施設等交通費通所交通費助成事業	650	6.2%

2 令和2年度における新規事業等

情報・通信支援用具

令和2年度から、日常生活用具給付事業の給付対象品目中「情報・通信支援用具」の耐用年数を新たに5年と設定するとともに、「視覚障害者用ポータブルレコーダー（再生専用機）」の基準額を増額。併せて、「情報・通信支援用具」の対象者要件について、「原則として学齢児以上」の要件を追加しています。

千歳市障がい者計画及び千歳市障がい福祉計画並びに千歳市障がい児福祉計画

現行の第5期千歳市障がい福祉計画が令和2年度で期間満了となります。新たな期間の計画の策定に当たり、委員の皆様のご意見をいただきながら策定作業を進めたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

第58回北海道障がい者スポーツ大会

千歳市では10月4日に陸上競技の開催が予定されております。しかし、コロナウィルス感染症の蔓延防止の観点から、大会自体を開催するか否かの判断が大会実行委員会から6月末までに示されることとされ、大会の実施については未確定となっております。

「令和2年度 千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」について

1 取組状況

平成25年4月1日に「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律」(別紙 参照)が施行され、当法律への対応として、同年11月に「千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」を策定し「障害者就労施設等における提供可能な物品等一覧表」を作成することで全庁的に障害者就労施設等への発注に努めるよう推進してきたところである。

過年度及び令和元年度(令和2年3月1日現在)の調達目標額及び調達実績は次表のとおりである。

(令和元年度実績見込みの詳細は別紙 参照)

年 度	調達目標額	調達実績額	(参考) 調達件数
平成25年度	1,000,000円	858,376円	28件
平成26年度	1,000,000円	877,955円	14件
平成27年度	1,000,000円	4,920,234円	23件
平成28年度	1,000,000円	609,787円	13件
平成29年度	1,000,000円	601,314円	19件
平成30年度	1,000,000円	1,189,514円	13件
令和元年度	1,000,000円	686,957円	12件

2 令和2年度の調達方針

令和元年度における調達実績は686,957円となっており、調達目標額には届かなかったが、今年度において、こども療育課では座布団クリーニング、水道局では水道メーター分解の発注が新たにあったところであり、昨年度の危機管理課(避難所で使用した毛布のクリーニング)に続き、全庁的な取組として着実に広がりつつある。

なお、例年子育て総合支援センターが障害者就労施設等にパンを発注していたが、今年度については、通所している児童の卵・小麦アレルギーを考慮し発注を見送ったとのことであったため、令和2年度以降は児童のアレルギーに配慮しつつ障害者就労施設等への発注に向けた協力を依頼したところである。

今後も引き続き、優先調達に係る周知の徹底を図り、新たな発注の確保に努めることとし、令和2年度の調達方針においては、調達目標額を引き続き1,000,000円と設定したうえで、別紙のとおり定めることとする。

3 調達方針の公表及び目標額達成に向けた取組

調達方針は市ホームページに掲載するほか、庁内イントラ掲示板に掲載し庁内周知を図ることとする。また、平成30年度からは、調達方針及び特定随意契約登録済みの障害者就労施設等の情報を年間複数回、庁内イントラ掲示板に掲載し、庁内周知の徹底を図っているところであり、引き続き庁内周知に努めるとともに、クリーニング・草刈等を実施予定の部署に対しては、個別に情報提供を行い、障害者就労施設等との積極的な調整を行うなど発注促進に向けた取組を行うこととする。

令和2年度 千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針

令和2年3月23日

市長 決 裁

1 目的

障がいのある方が就労によって経済的に自立し、安定した生活を送るためには、障がい者雇用を推進するとともに、障がいのある方が就労する施設等が供給する物品及び役務(以下「物品等」という。)に対する需要の増進を図り、当該施設等の仕事の受注を確保し、経済的な基盤を確立することが重要である。

このため、平成25年4月に「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律(平成24年法律第50号。以下「障害者優先調達推進法」という。)」が施行され、国、独立行政法人及び地方公共団体等は、優先的に障害者就労施設等から物品等を調達するよう努めるとともに、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を策定するなど、法に基づく取組が進められることになった。

千歳市においても、障害者優先調達推進法第9条の規定に基づき、平成25年度から毎年度「千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」(以下「調達方針」という。)を策定し、障害者優先調達推進法に基づく取組を進めてきているところであり、このたび、令和2年度における調達方針を策定し、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進をより一層図ることとする。

2 適用範囲

本調達方針は、千歳市の全ての組織に適用するものとする。

3 調達する物品等

障害者就労施設等から調達する物品等については、次のとおりとする。

なお、次に記載のないものであっても、障害者就労施設等が受注可能な物品等であれば対象とする。

(1)物品

食品、農作物、印刷物、記念品・小物雑貨等

(2)役務

クリーニング、清掃作業、廃棄作業、除雪作業、PC業務、軽作業等

4 調達の対象とする障害者就労施設等

この方針において調達の対象となる障害者就労施設等は、次のとおりとする。

(1)「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)」

に基づく事業所・施設等

就労移行支援事業所

就労継続支援事業所(A型、B型)

生活介護事業所

障害者支援施設(就労移行支援、就労継続支援、生活介護を行うものに限る)

地域活動支援センター

小規模作業所

(2) 障がい者を多数雇用している企業等

「障害者の雇用の促進等に関する法律(昭和35年法律第123号)」に基づく特例子会社
重度障がい者多数雇用事業所()

() 重度障がい者多数雇用事業所の要件

- ・ 障がい者の雇用者数が5人以上
- ・ 障がい者の割合が従業員の20%以上
- ・ 雇用障がい者に占める重度身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の割合が30%以上

(3) 在宅就業障がい者等

在宅就業障がい者(自宅等において物品の製造、役務の提供等の業務を自ら行う障がい者)
在宅就業支援団体(在宅就業障がい者に対する援助の業務等を行う団体)

5 調達の目標

令和元年度調達実績見込みを踏まえ、これを上回ることを目標とし、その額を1,000千円とする。

6 調達の推進方法

障害者就労施設等から提供可能な物品等について情報を収集し、各部署に情報提供を行い、各部署はその情報をもとに可能な限り障害者就労施設等への発注に努めるものとする。

7 調達方針及び調達実績の公表

(1) 調達方針を策定したときは、市ホームページ等により公表する。

(2) 調達実績は年度終了後に概要を取りまとめ、市ホームページ等により公表する。

8 物品等の調達に当たっての留意事項

この方針による物品等の調達に当たっては、次の点に留意するものとする。

(1) 予算の適正な執行に配慮しつつ、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の2第1項第3号に基づく随意契約制度を活用する。

(2) 高齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)に基づいて設置されたシルバー人材センターや地元中小企業等に配慮する。

(3) 障がい者の自立を促進する観点から、あらかじめ発注者の承諾を得た場合を除き、受注者は業務の全部又は一部を第三者に委託し、又は請け負わせてはならないものとする。

9 担当窓口

この方針に関する担当窓口は、保健福祉部障がい者支援課とする。

令和元年度千歳市障害程度区分認定審査会審査結果

1 審査会開催状況

回数	年月日	出席委員数	認定件数	新規認定(再掲)
第1回	H31.4.23	4	23	5
第2回	R1.5.21	5	22	4
第3回	R1.6.25	5	19	5
第4回	R1.7.23	4	16	3
第5回	R1.8.20	5	19	5
第6回	R1.9.10	5	14	1
第7回	R1.9.25	4	19	4
第8回	R1.10.24	4	24	2
第9回	R1.11.21	5	22	0
第10回	R1.12.19	4	22	6
第11回	R2.1.23	3	21	8
第12回	R2.2.20	5	24	8
第13回	R2.3.12	4	22	2
第14回	R2.3.24	5	17	6
合計		62	284	59

2 障害種類別件数

内 訳	件 数	割合(%)
身体	45	15.8%
知的	131	46.1%
精神	66	23.2%
身体+知的	27	9.5%
知的+精神	4	1.4%
精神+身体	5	1.8%
身体+知的+精神	1	0.4%
難病	1	0.4%
身体+難病	3	1.1%
知的+難病	1	0.4%
合計	284	100.0%

3 障害支援区分別件数

区 分	件 数	割合(%)
非該当	0	0.0%
区分 1	3	1.1%
区分 2	35	12.3%
区分 3	77	27.1%
区分 4	68	23.9%
区分 5	50	17.6%
区分 6	51	18.0%
合計	284	100.0%

4 有効期間別件数

期 間	件 数	割合(%)
12 か月	0	0.0%
24 か月	233	82.0%
36 か月	51	18.0%
その他	0	0.0%
合計	284	100.0%

令和2年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

1 自立支援協議会の法的根拠

(障害者総合支援法抜粋)

第89条の3

地方公共団体は、単独で又は共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育又は雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者(次項において「関係機関等」という。)により構成される協議会を置くように努めなければならない。

2 前項の協議会は、関係機関等が相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとする。

2 所掌事務(千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱第2条)

(1) 協議会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長へ報告する。

障害者等の福祉に関する情報等の共有に関すること

地域課題、困難事例等への対応及び支援に関すること

地域の関係機関等相互の連携及び地域社会との良好な関係構築に関すること

地域の社会資源の改善及び開発に関すること

障害者等のケアマネジメントに関すること

相談支援事業者の中立・公平性の確保及び評価に関すること

障害者等の権利擁護に関すること

千歳市障がい者計画及び千歳市障がい福祉計画並びに千歳市障がい児福祉計画に関すること

その他障害者等の地域生活支援に関すること

(2) 協議会は、協議会で合意された事項について、市長、関係機関等へ提言することができる。

3 協議会委員

協議会委員は、「千歳市障がい者地域自立支援協議会委員名簿」のとおり

(現委員の任期は令和2年10月28日まで)

4 協議会の構成

千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱に基づき、定例会議のほか、事務局会議、専門部会、地域部会、協力組織により構成する。

また、委員のほか、協力組織や市内の関係機関、関係事業所、関係団体等を構成組織とする地域生活支援全体会議（全体会議）を必要に応じて開催する。

協議会の構成は、別紙「イメージ図」のとおり

5 定例の協議会の開催

- (1) 定例会議の開催は、年間 4 回程度を基本とする。
- (2) 障がい福祉施策に関する情報共有を図り、事務局会議や各部会等からの報告を受けて、制度の実施状況、計画の進捗状況などの把握とチェック、施策提言などをまとめるほか行政施策に関する協議に対して意見をまとめる。
- (3) 重要事項について方針等を決定する。

6 事務局会議の設置

- (1) 事務局会議は、会長が指名する委員並びに会長、副会長、事務局長及び事務局次長で構成する。
- (2) 事務局会議は必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。
- (3) 事務局会議は協議会の運営全般を協議する場として、寄せられる諸課題を整理し、定例会議の議題を整理する。

7 専門部会の設置

- (1) 専門部会は、協議会の所掌事項のうち優先すべき重要事項について、定例会議の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査及び研究等を行う。
- (2) 専門部会の設置は、定例会議で決定する。
- (3) 専門部会の構成員は、部会長が委員及び委員以外の者から指名することとし、テーマに関係する事業者等、委員以外のメンバーを柔軟に招集できるものとする。
- (4) 部会長は、協議・調査・研究等の経過及び成果を定例会議で報告する。
- (5) 行政に対する制度改正・創設などを求める内容については、定例会議の決定を経て提言書としてまとめ、市長または関係機関等へ提出することができる。
- (6) 提起された課題が解決した場合は、部会を廃止する。

【設置部会】

差別解消・虐待防止専門部会

手話言語条例推進専門部会

8 地域部会の設置

- (1) 地域部会は、テーマに係る機関の情報共有及び連携強化を図り、自主的な活動ができる場とする。
- (2) 地域部会の設置は、定例会議で決定する。
- (3) 部会長は、テーマに係る事業者や団体、当事者等を柔軟に招集できるものとする。
- (4) 部会長は、活動内容を定例会議に報告する。また、部会において解決できない共通認識のある課題については、協議会に報告することができるものとする。
- (5) 地域部会間においても自由に情報提供・意見交換等ができるものとする。

【設置部会】

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

9 協力組織について

- (1) 自主的に所掌事項に関する情報及び資料収集、調査及び研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織を協力組織と位置付ける。
- (2) 協力組織は、立ち上げにあたり協議会・定例会議の決定を特に要さない。ただし、協議会への参画にあたっては、協議会定例会議の了解を得ることとする。
- (3) 協力組織は、構成メンバーの日常の運営・活動に関する相互の情報提供などを通じて、課題の共有化と課題抽出などを自主的に行うこととする。
- (4) 協議会並びに事務局は、必要に応じて協力組織運営の支援を行う。
- (5) 協力組織の代表は、必要に応じて協議会の了解の下、定例会議に出席し、意見を述べるができるものとする。

【設置組織】

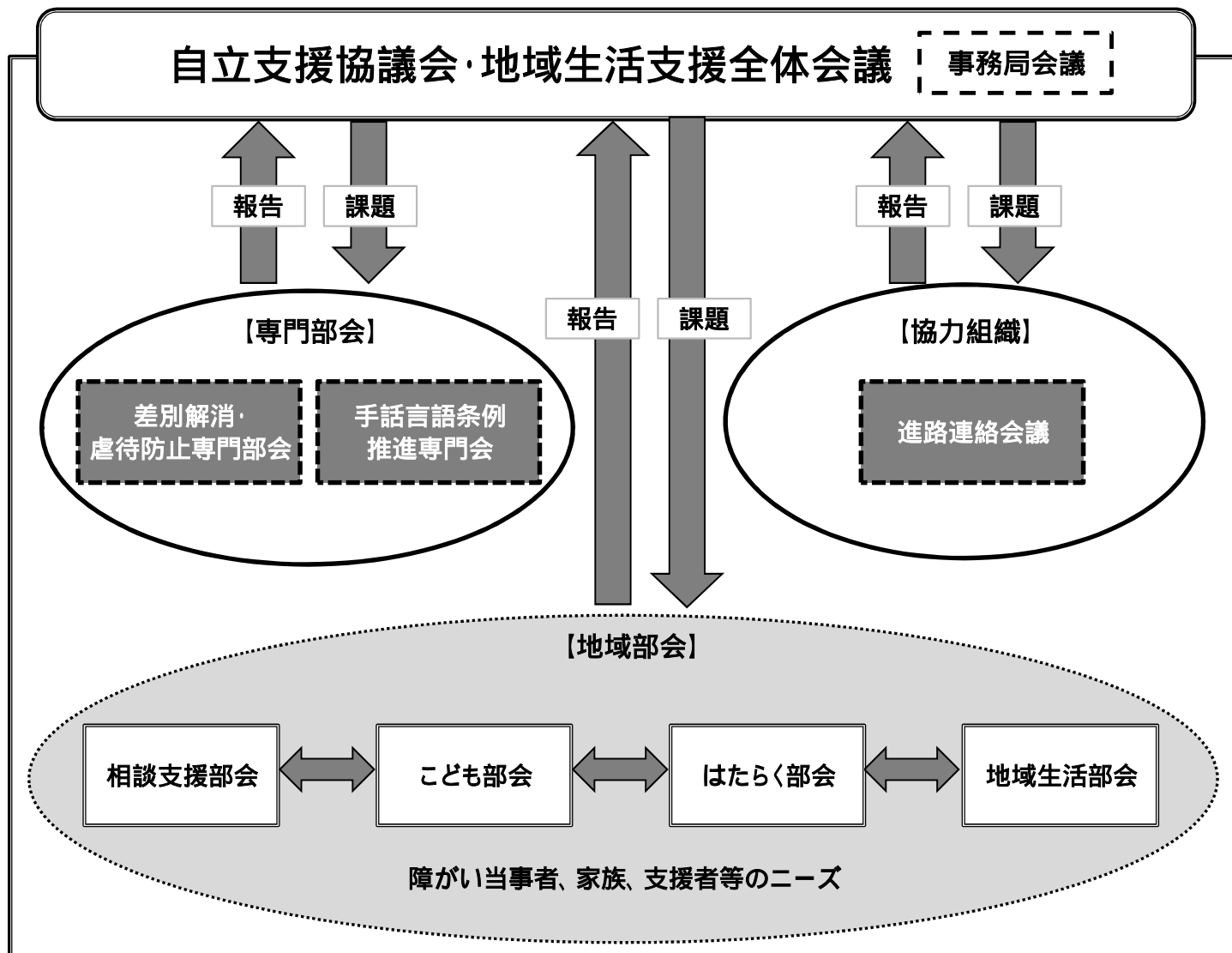
進路連絡会議

10 地域生活支援全体会議（全体会議）の開催

協議会は、地域での所掌事項に関する情報の共有及び協力・連携のため、必要に応じて定例会議に兼ねて全体会議を開催する。

なお、年度当初の協議会は全体会議を兼ねることとする。

千歳市障がい者地域自立支援協議会・イメージ図



【自立支援協議会】

- ・障がい福祉施策に関する情報共有化を図り、事務局会議や各部会等からの報告を受けて、制度の実施状況、計画の進捗状況などのチェック、施策提言などをまとめるほか、行政施策に関する協議に対して意見をまとめる。
- ・重要事項について方針等を決定する。
- ・行政に対する制度改正・創設などを求める内容については、定例会議の決定を経て市長または関係機関等へ提言することができるものとする。

【事務局会議】

- ・協議会の運営全般を協議する場として、寄せられる諸問題を整理し、定例会議の議題を整理する。

【専門部会】

- ・協議会の所掌事項のうち優先すべき重要事項について、定例会議の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査、研究等を行う。
- ・短期的・集中的に課題の協議を行い、協議の経過や結果を定例会議に報告する。

【地域部会】

- ・関係する機関における情報共有、ネットワークの構築を図り、自主的な活動ができる場とする。
- ・構成員はテーマに関係する事業者や団体、当事者等を柔軟に招集することができる。
- ・地域部会間においても情報提供・意見交換等ができるものとする。
- ・部会内において解決できない共通認識のある課題については、協議会に報告することができるものとする。

【協力組織】

- ・協力組織は所掌事項に関する情報及び資料収集、調査、研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織であり、協議会は協力組織との連携に努めることとする。

平成18年5月23日
市長 決 裁

千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱

(設置)

第1条 市内に居住する障害者、障害児等（以下「障害者等」という）への支援の体制の整備を図るため、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第89条の3第1項の規定に基づき、福祉、保健、医療、雇用及び教育に関する関係機関、関係団体、関係事業者等による連携及び支援体制に関する協議を行い、障害者等の福祉施策及び地域生活支援を総合的かつ効果的に推進することを目的に千歳市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長へ報告する。

- (1) 障害者等の福祉に関する情報等の共有に関すること。
- (2) 地域課題、困難事例等への対応及び支援に関すること。
- (3) 地域の関係機関等相互の連携及び地域社会との良好な関係構築に関すること。
- (4) 地域の社会資源の改善及び開発に関すること。
- (5) 障害者等のケアマネジメントに関すること。
- (6) 相談支援事業者の中立・公平性の確保及び評価に関すること。
- (7) 障害者等の権利擁護に関すること。
- (8) 千歳市障がい者計画及び千歳市障がい福祉計画並びに千歳市障がい児福祉計画に関すること。
- (9) その他障害者等の地域生活支援に関すること。

2 協議会は、協議会で合意された事項について、市長、関係機関等へ提言することができる。

(委員)

第3条 協議会は、委員26人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 市内に居住する障害者等及びその家族等
- (2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者
- (3) 市内に居住し、又は通勤若しくは通所する者であって、次に掲げる関係機関等の代表者又は関係機関等から推薦を受けたもの
 - ア 障害者等の家族団体、支援団体等
 - イ 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関係する機関、団体等
 - ウ 障害福祉サービス事業所等
 - エ 相談支援事業所等
 - オ 地域生活支援事業所等

(4) 市長が別に定めるところにより公募で選考した者

(5) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員に対する報酬は、支給しない。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長が欠けたとき、又は会長に事故あるときは、その職務を代理する。

4 会長は、協議会を定例的又は必要に応じ臨時に招集し、会議の議長となる。

5 会長は、会長の招集する会議に必要な応じ委員以外の出席を求め、その意見若しくは説明を聞き、又は資料の提出を求めることができる。

(事務局会議)

第5条 協議会に、所掌事項の取扱い及び運営に関する調整を行うため、事務局会議を置く。

2 事務局会議は、委員のうちから会長が指名する運営委員並びに事務局長及び事務局次長で構成する。

3 事務局会議に座長を置き、事務局長を充てる。

4 座長は、事務局会議を必要に応じて招集し、会議の議長となる。

5 事務局会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(専門部会)

第6条 協議会は、協議会の所掌事項のうち重要事項について、協議会の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査、研究等を行うため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に部会長及び副部会長を置く。

3 部会長は、委員のうちから会長が指名する。

4 副部会長は、部会長が指名し、部会長に事故あるときは、その職務を代理する。

5 専門部会の構成員は、協議会の同意を得て、委員及び委員以外の者を部会長が指名する。

6 部会長は、専門部会を必要に応じて招集し、会議の議長となる。

7 部会長は、調査研究等の経過及び成果を協議会へ報告しなければならない。

(地域部会)

第7条 協議会は、分野ごとに地域の関係機関等相互の連携及び障害者等の福祉に関する情報等の共有を図るため、地域部会を置くことができる。

2 地域部会に部会長を置く。

3 部会長は、分野に関係する事業者や団体等を招集することができる。

4 部会長は、地域部会の活動内容を協議会へ報告しなければならない。

(協力組織)

第8条 協議会は、自主的に所掌事項に関する情報及び資料収集、調査、研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織を協力組織とすることができる。

2 協議会は、協力組織との連携に努めなければならない。

3 協議会は、協力組織代表者に出席を求め、調査研究等の成果について報告若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(全体会)

第9条 協議会は、地域で所掌事項に関する情報の共有化及び協力関係を構築するため、定例の協議会に兼ねて、地域生活支援全体会議(以下「全体会」という。)を開催することができる。

2 全体会には、委員のほか、市内の第3条第2項第3号に掲げる関係機関等のうちすべての機関等の招集に努めるものとする。

(事務局)

第10条 事務局は、千歳市保健福祉部障がい者支援課に置き、協議会の庶務を行う。

2 千歳市障がい者総合支援センターは、協議会の運営等に関し、事務局を補佐する。

3 事務局に事務局長及び事務局次長を置き、事務局長は障がい者支援課長をもって充て、事務局次長は障がい者支援課自立支援係長及び障がい者総合支援センター長をもって充てる。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年5月23日から施行する。

附 則(平成22年7月1日)

この要綱は、平成22年7月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月1日)

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成25年5月29日)

この要綱は、平成25年5月29日から施行する。

附 則(平成30年4月1日)

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。